

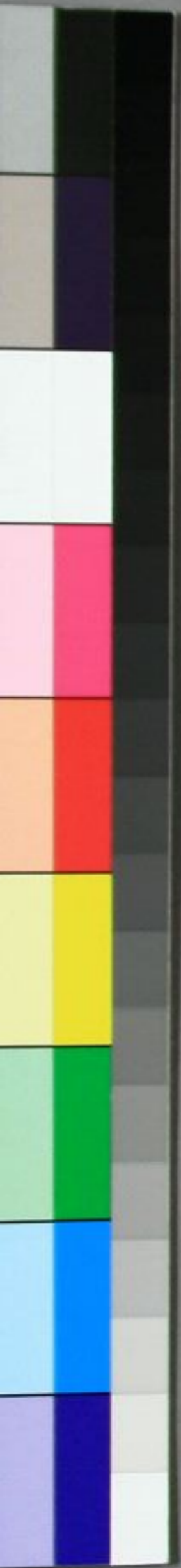
碁立絹篩後編

七

7多9

641

7



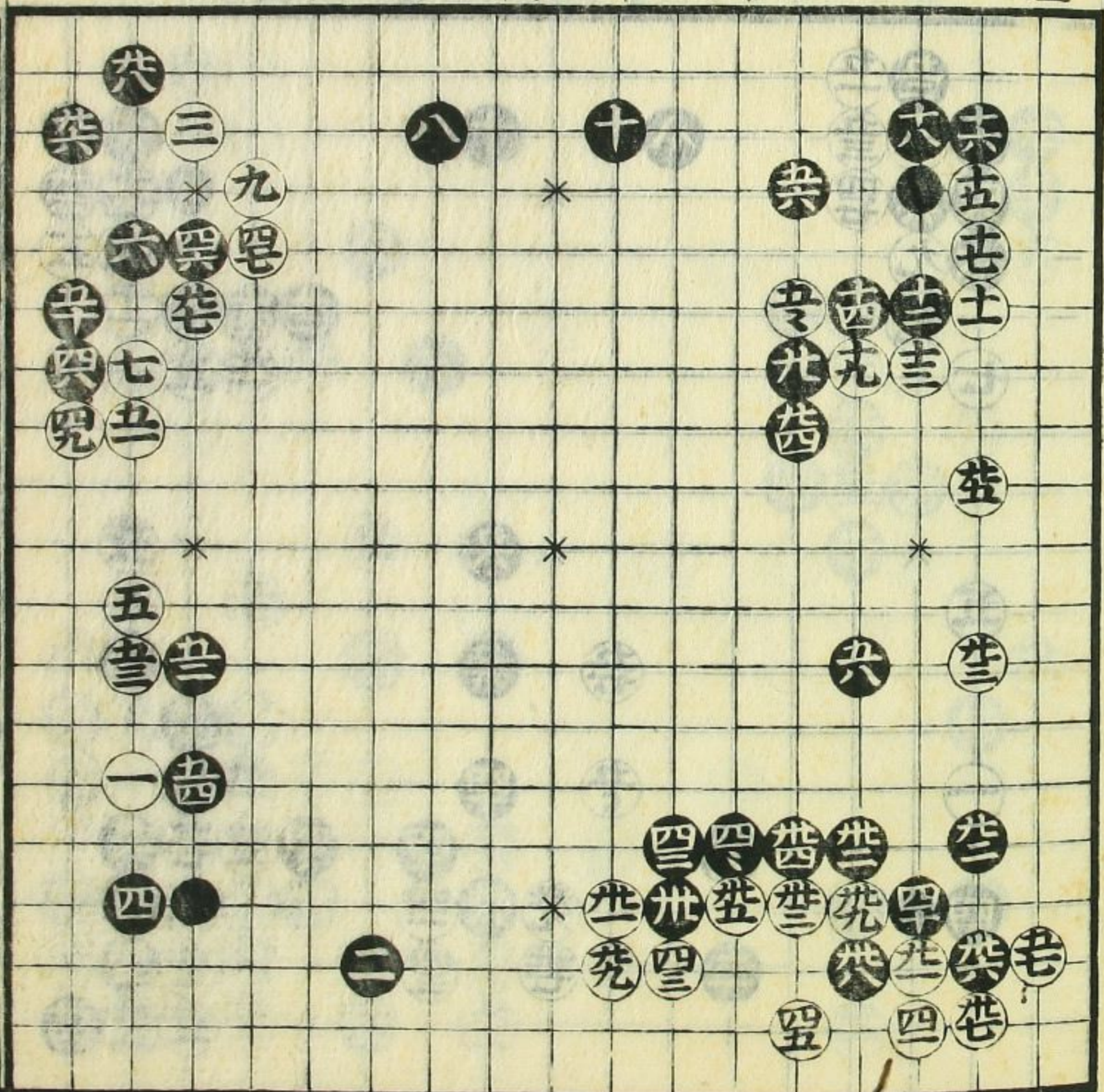


碁譜節後篇卷三

才一と一

五十七と

此石立中と石の去
りて熱して位を打
事を知りて後
見守りて黒討の
外は後三歩後也
黒サの附白の黒サ
四を切ると黒又土を
切ると口付有り
女六のよよおれ
て勤のこころ高く
さちくかり生るる
大りの下なり

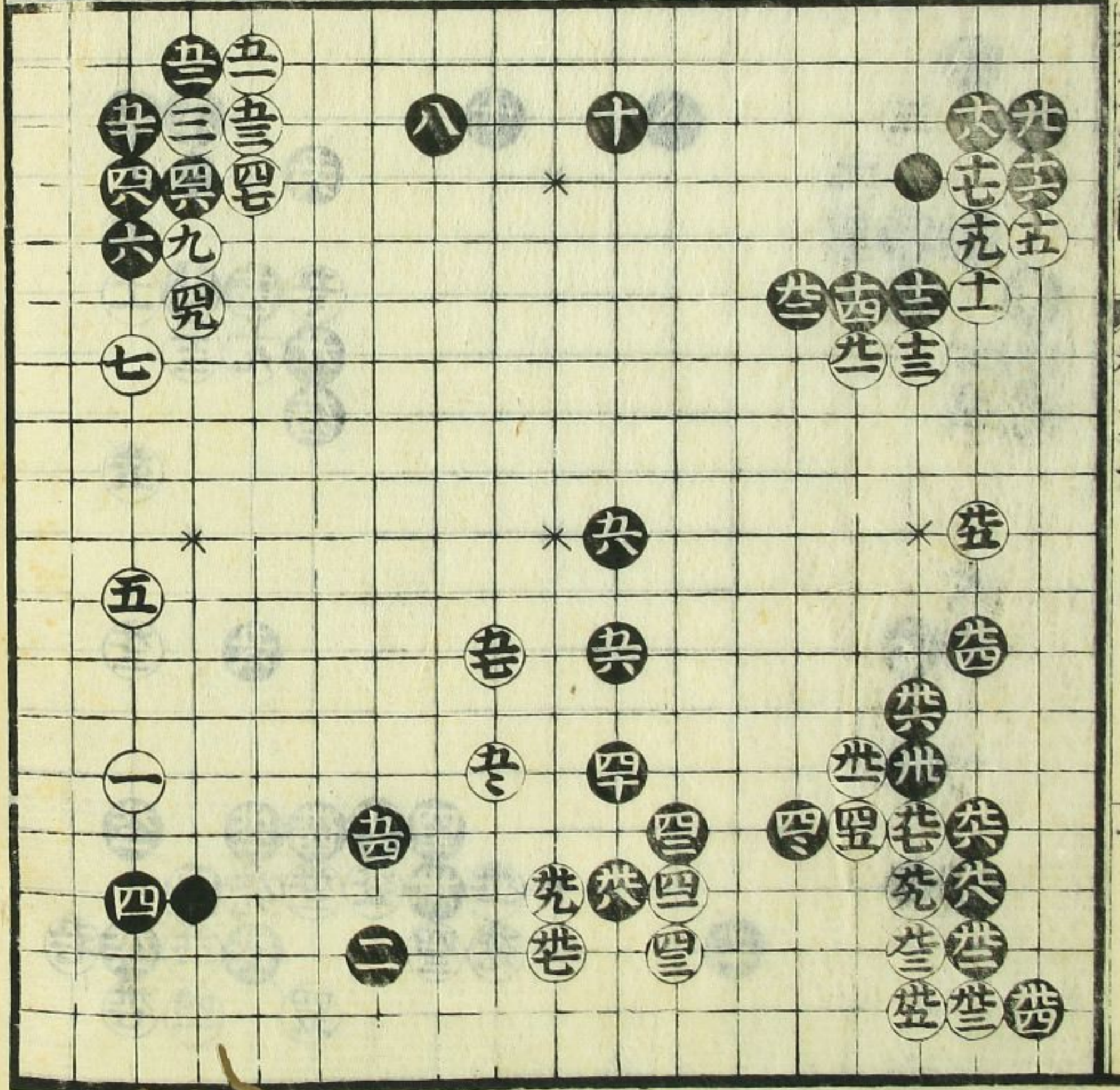


碁譜節後篇卷三

才一〇二

七十八

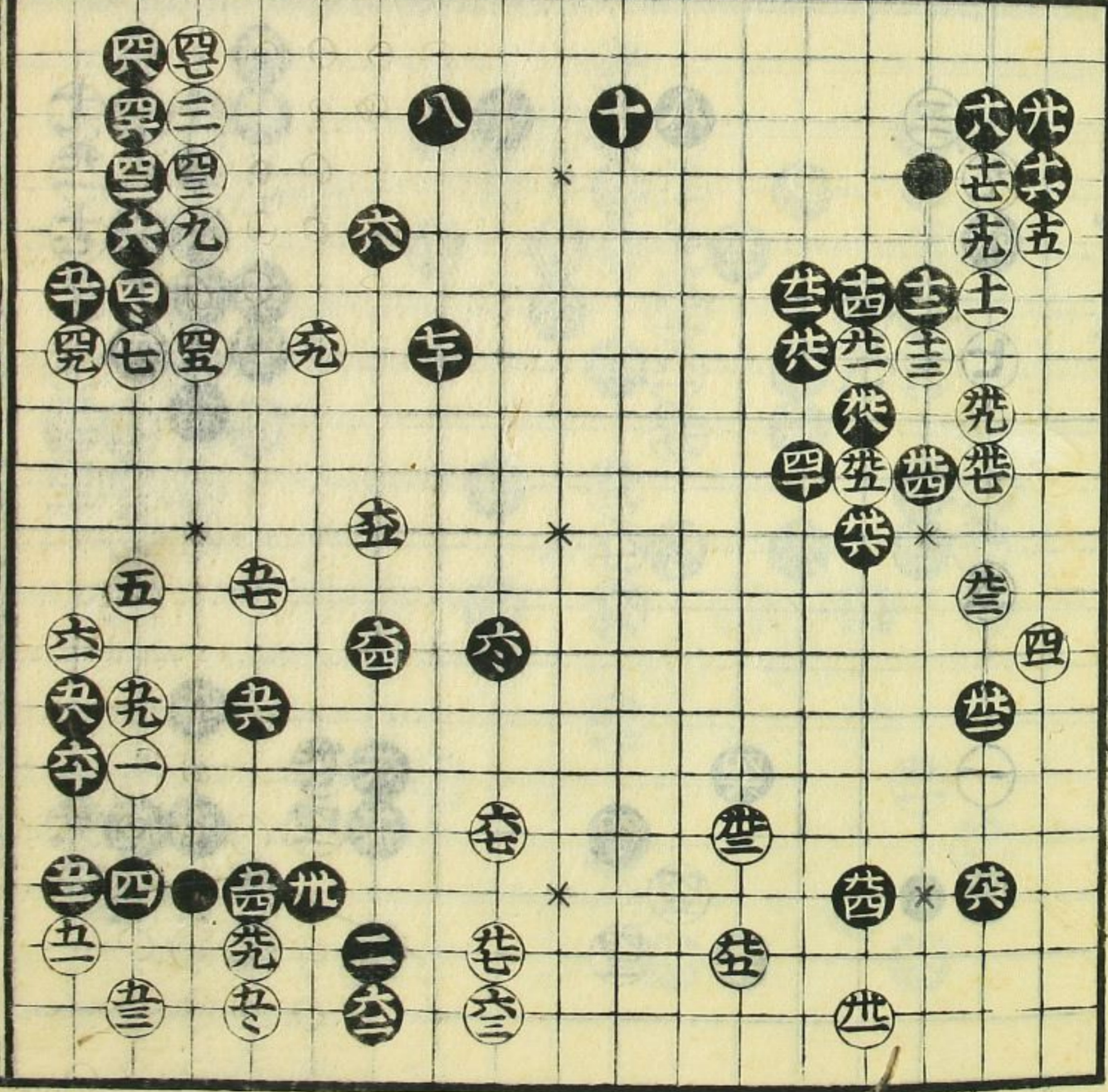
新のこく白の略
てあつたも黒二の
勢ひはれすして
に捕まぬるがく一の
不立小女三のよ久
赤附をあらはせ
ハ世立小女



才一〇三

七十

世立小女より白
三の赤附黒八の
を今一を押し
のめこく黒くて厚
く赤附ハぬれ白
赤の世立小女
ハに知と赤ハ一
押して赤附ハを
白赤世立小女
只赤不赤一切の
に教と赤附ハ
四の附白小女
赤のこく赤の
十五の赤の
赤のこく赤の
赤のこく赤の
赤のこく赤の
赤のこく赤の

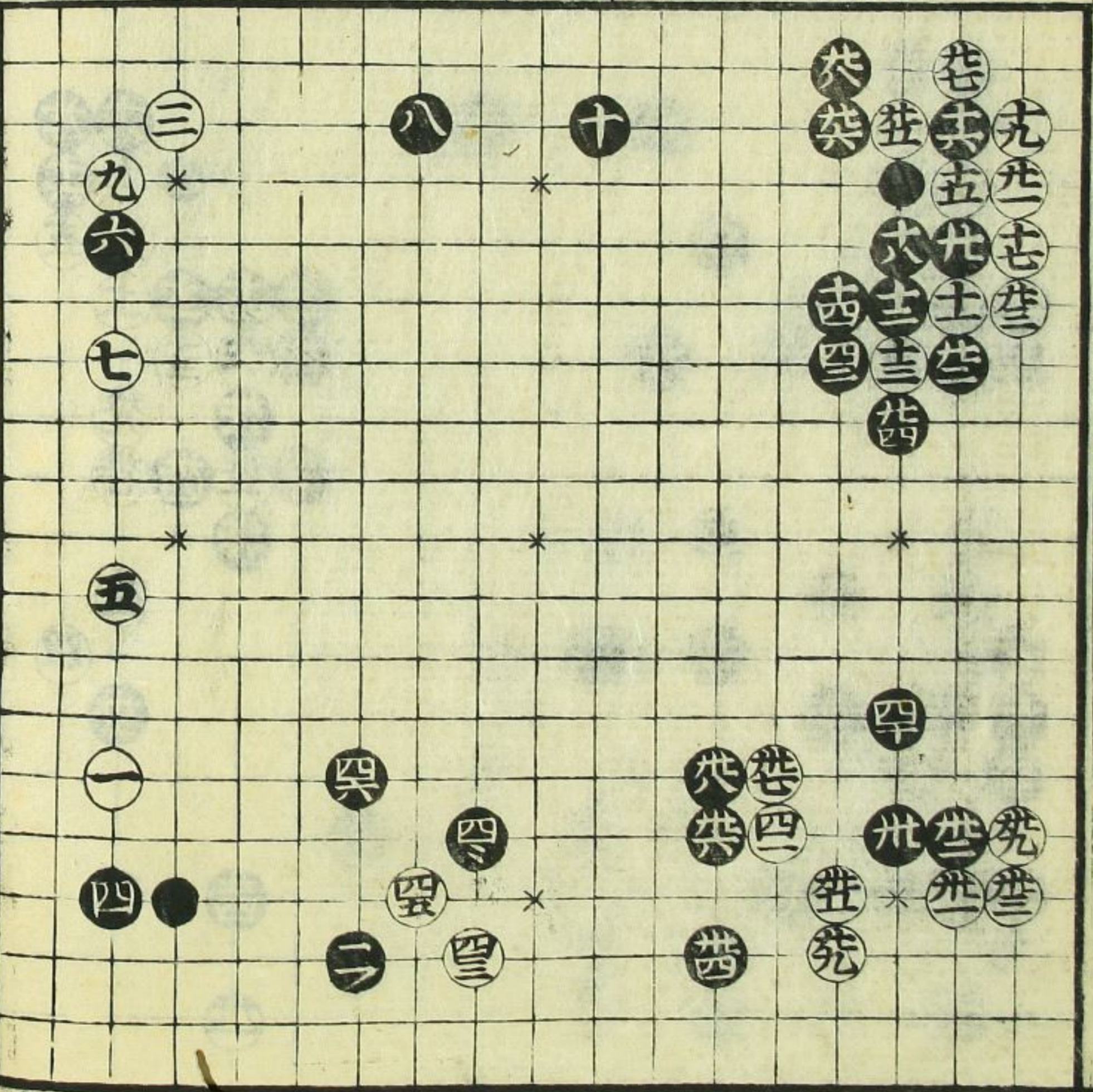


才一〇二
才一〇三

才一と四

四十六と

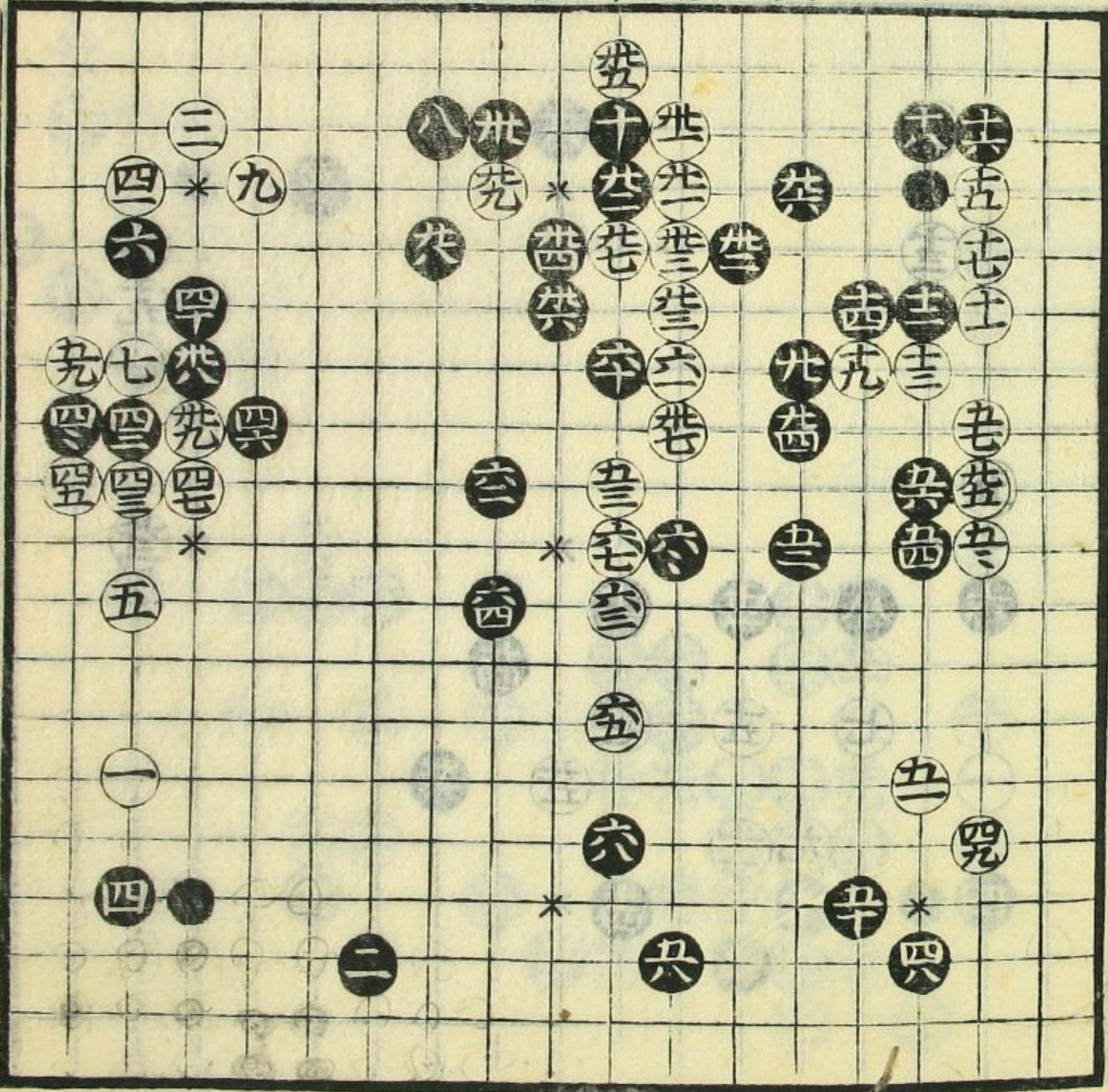
十八のひらきと舟人さ
 るはゆふ十のふねに
 かなまのこころお
 事傍のひらきやう
 委不位て見合な
 一石立にては他さ
 九のこころ先わのこ
 とは委不位と高
 くおあへ一甲四と
 くひのひらき一甲
 六のひらきと舟人さ
 更勢ひはより
 ありひてはひま
 されはとて逸は
 弱くして悪ま



才一と五

六十八と

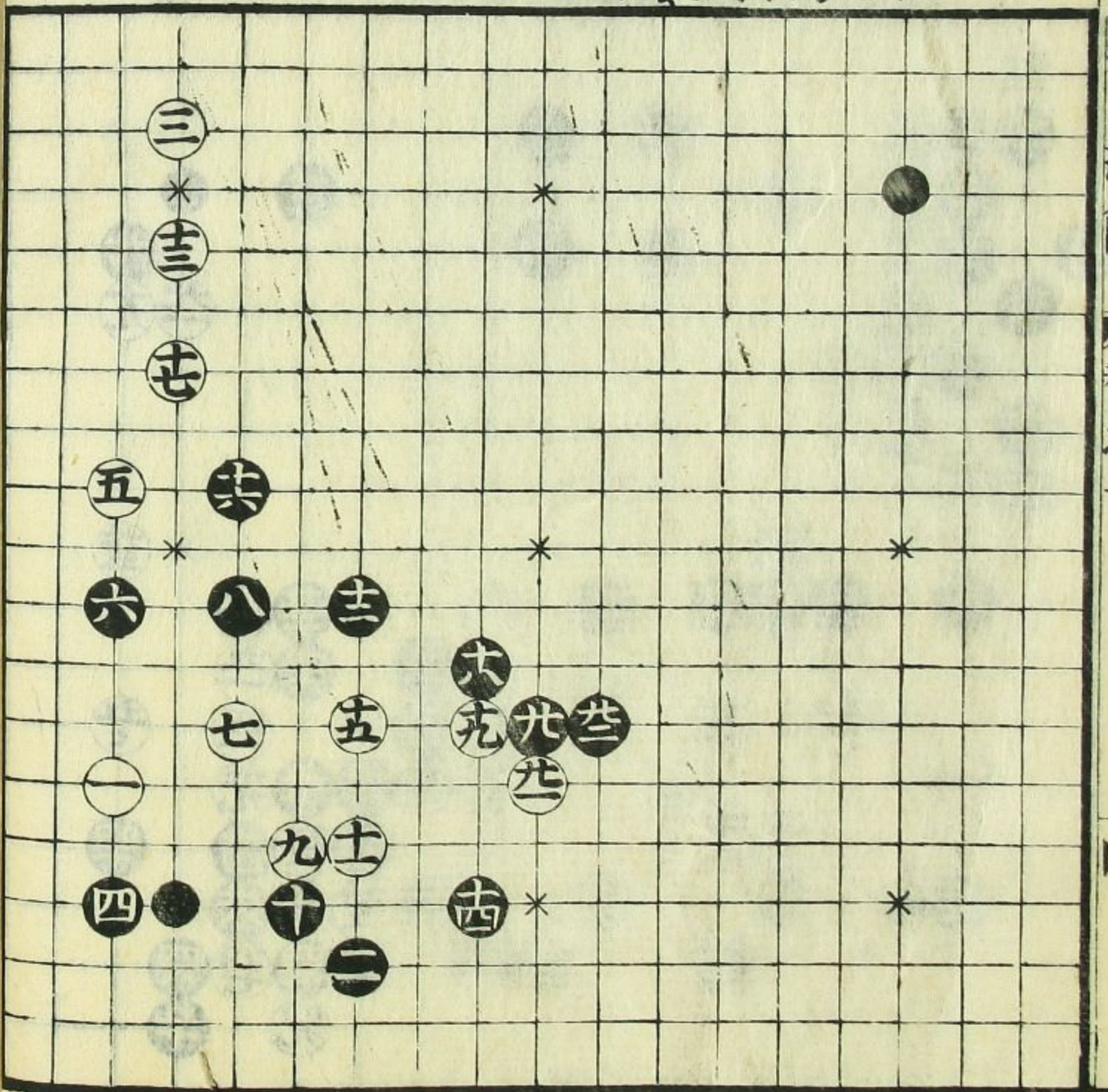
斯のこころ黒の方
 弱き活ありあ
 委の位とあ
 守りて弱
 けくは委
 く情
 中の黒と
 とを立
 て二目
 を知
 黒の
 は
 此
 て
 一
 切
 の
 委
 の
 弱
 く
 して
 悪
 ま



才二二二

二十二まで

十六十八の星ひを
たのみに地すなはち
二のろまの二を移る
三泰といひ次は十六
のひを移すおのり
らめくのことく十八の
ひを白にあつて法
くす此を一切かり
す

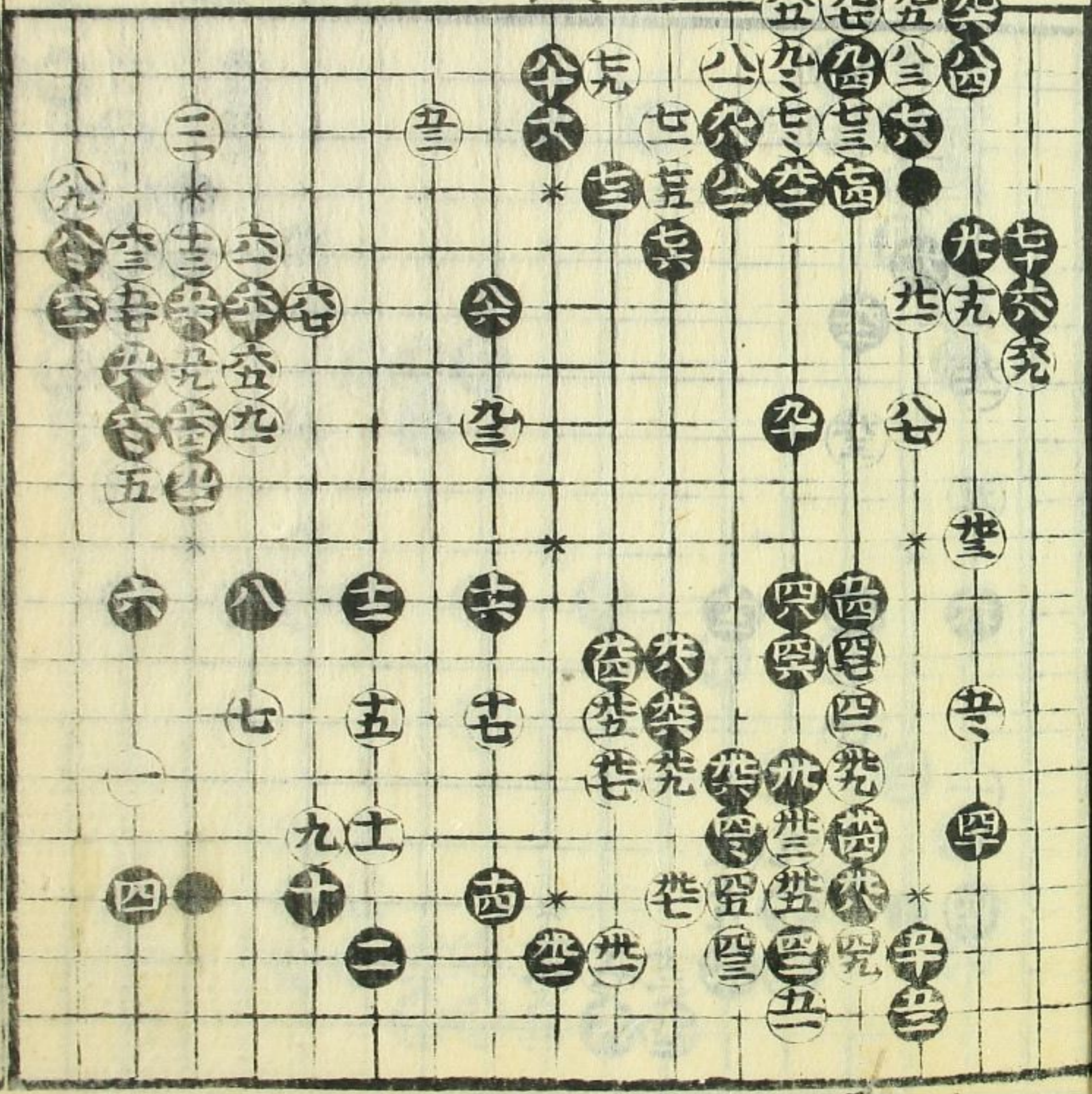


碁正綱目 卷之七

才二二四

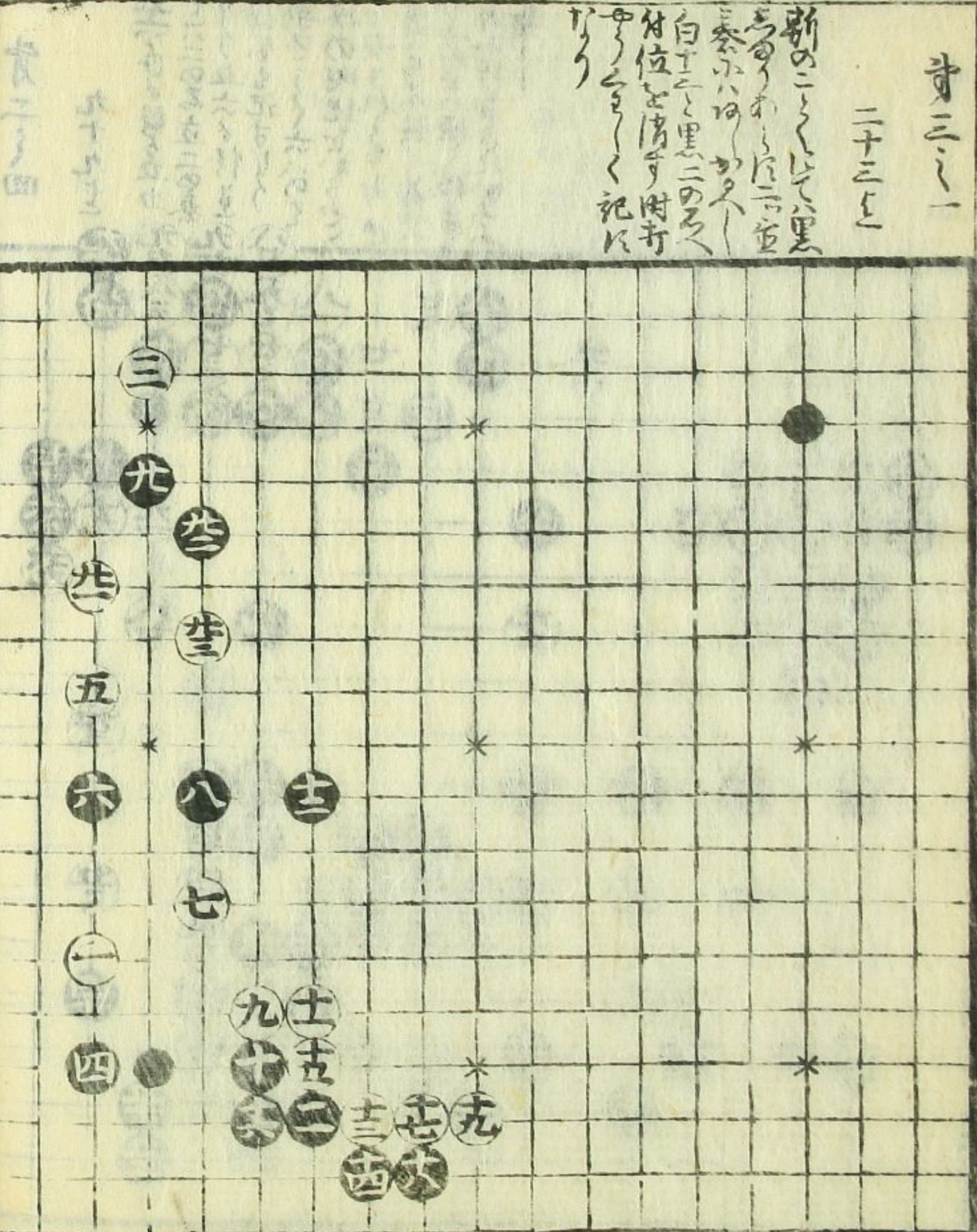
九十九と

五のひを移る五カ
し二のろま二の泰
りり五六の移し
揚不も記すりり
斯のこく六八の
杯の附地をかるこ
と安られもおひ
甘てもんはは
やあれは八極に破して
外ふはあきにかまふ
也

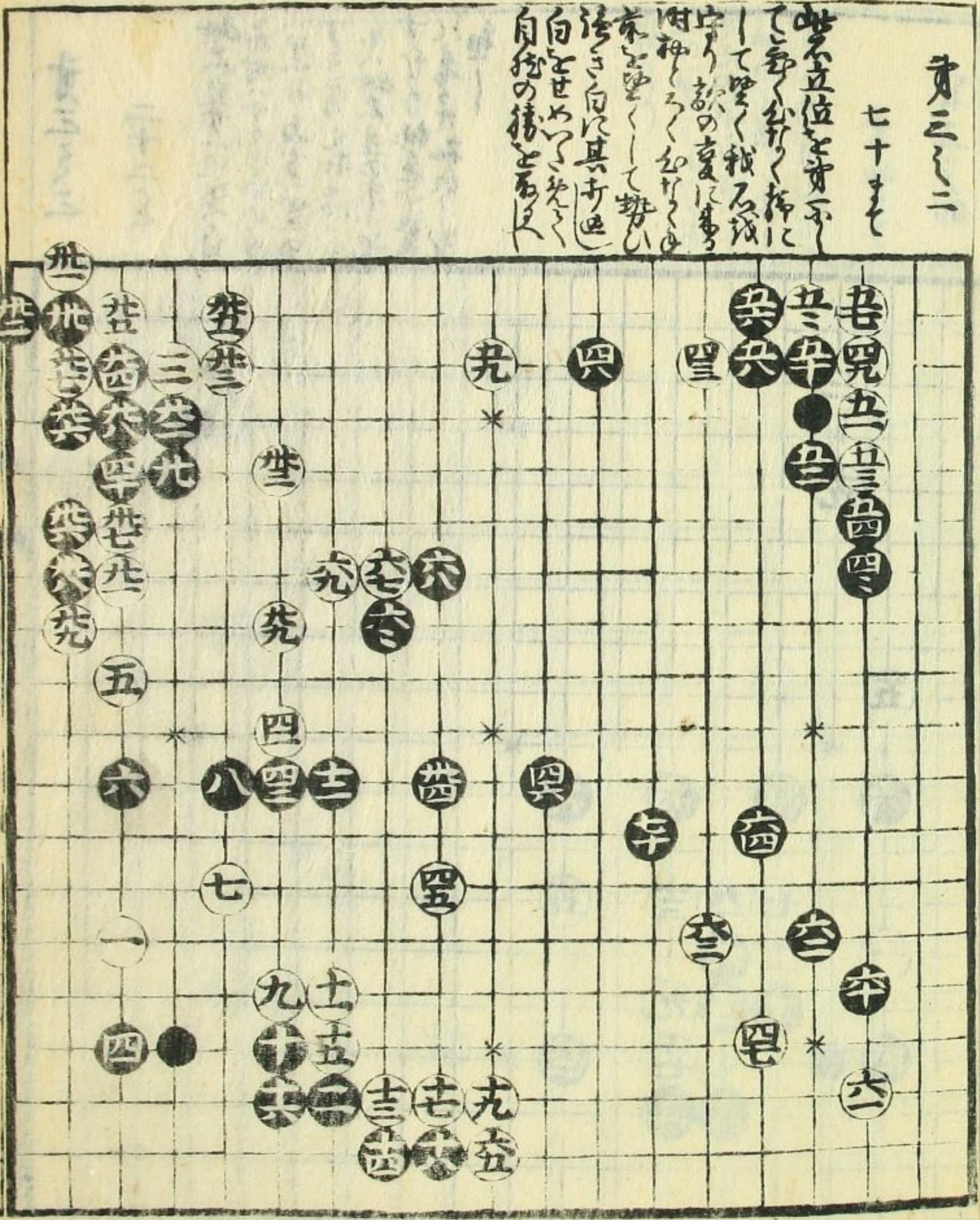


碁正綱目 卷之七

新のこくして八里
あるうわらうは二重
三泰ふいひかへし
白土と黒土の二の
付位を清す附打
中へさへく記に
りり



此不立位をす
て各々分りて
して各々積る
字り款のまに
附神くろくわ
茶をまぐして
法さ白に其
白をせしめ
白物の積る

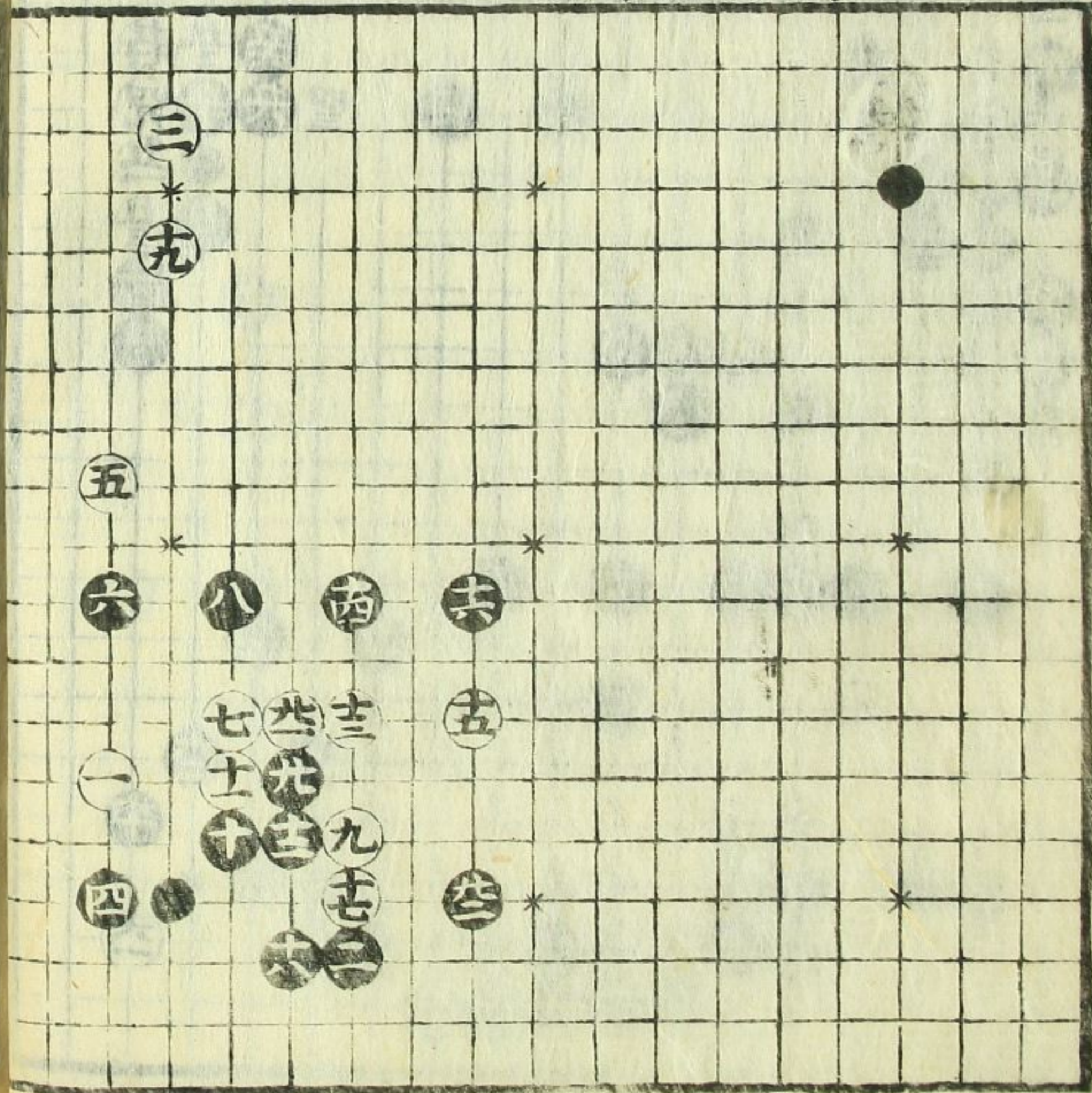


精進
續
卷
終

才三三三

二十二と

才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三



碁立續節

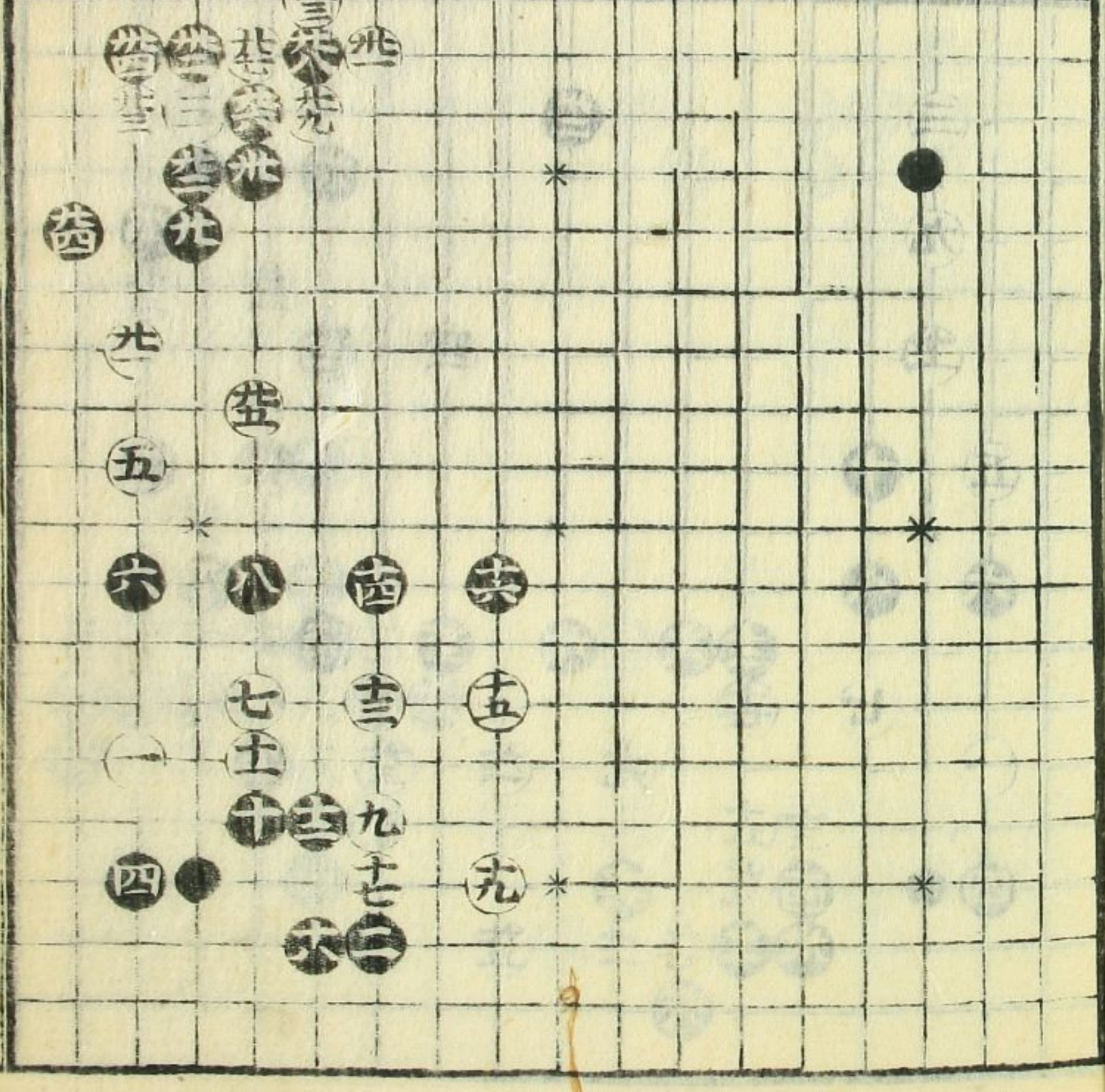
卷之七

六

才三三三

二十四と

才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三
才三三三の才三三三



才三〇五

四十一と

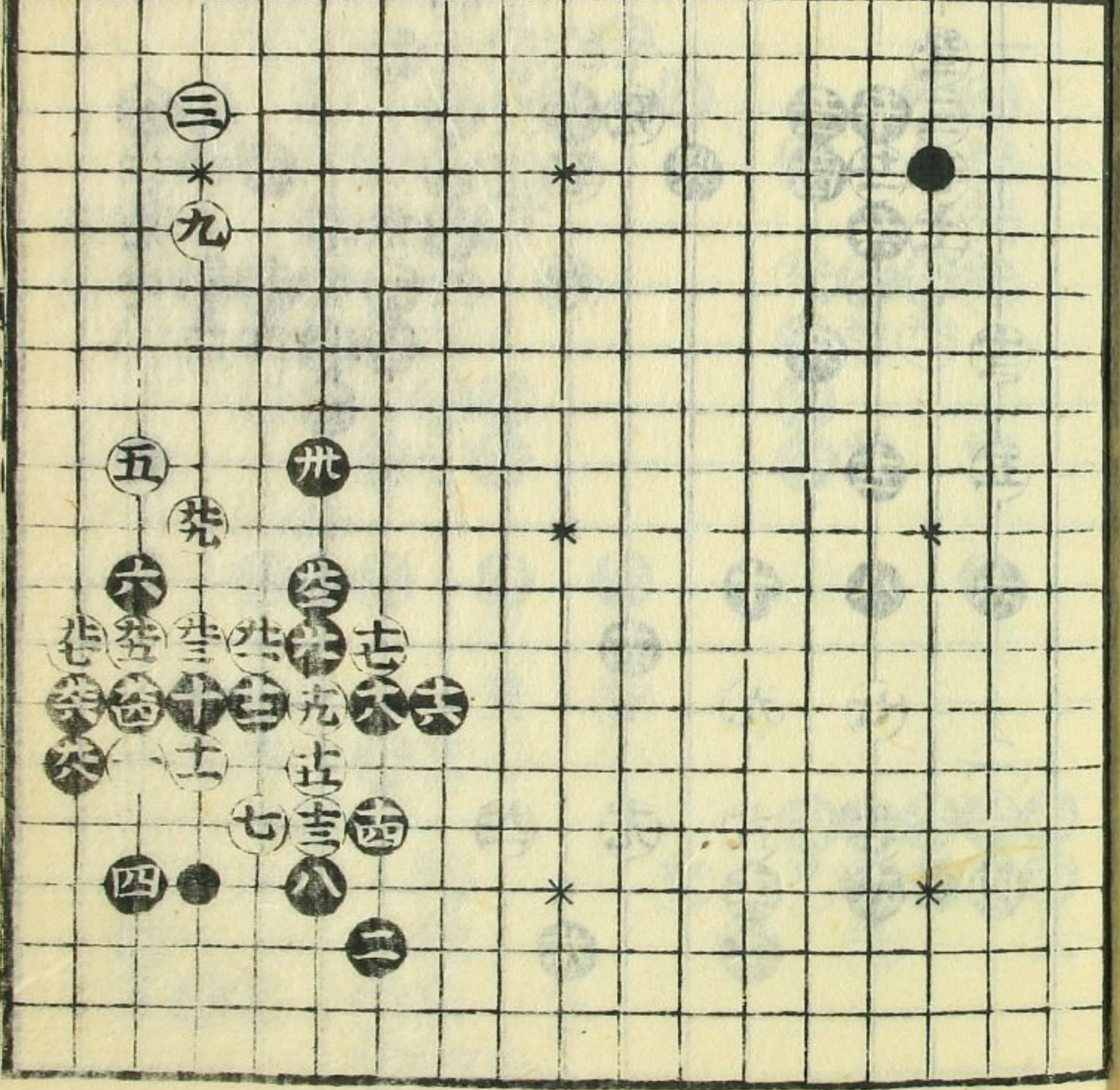
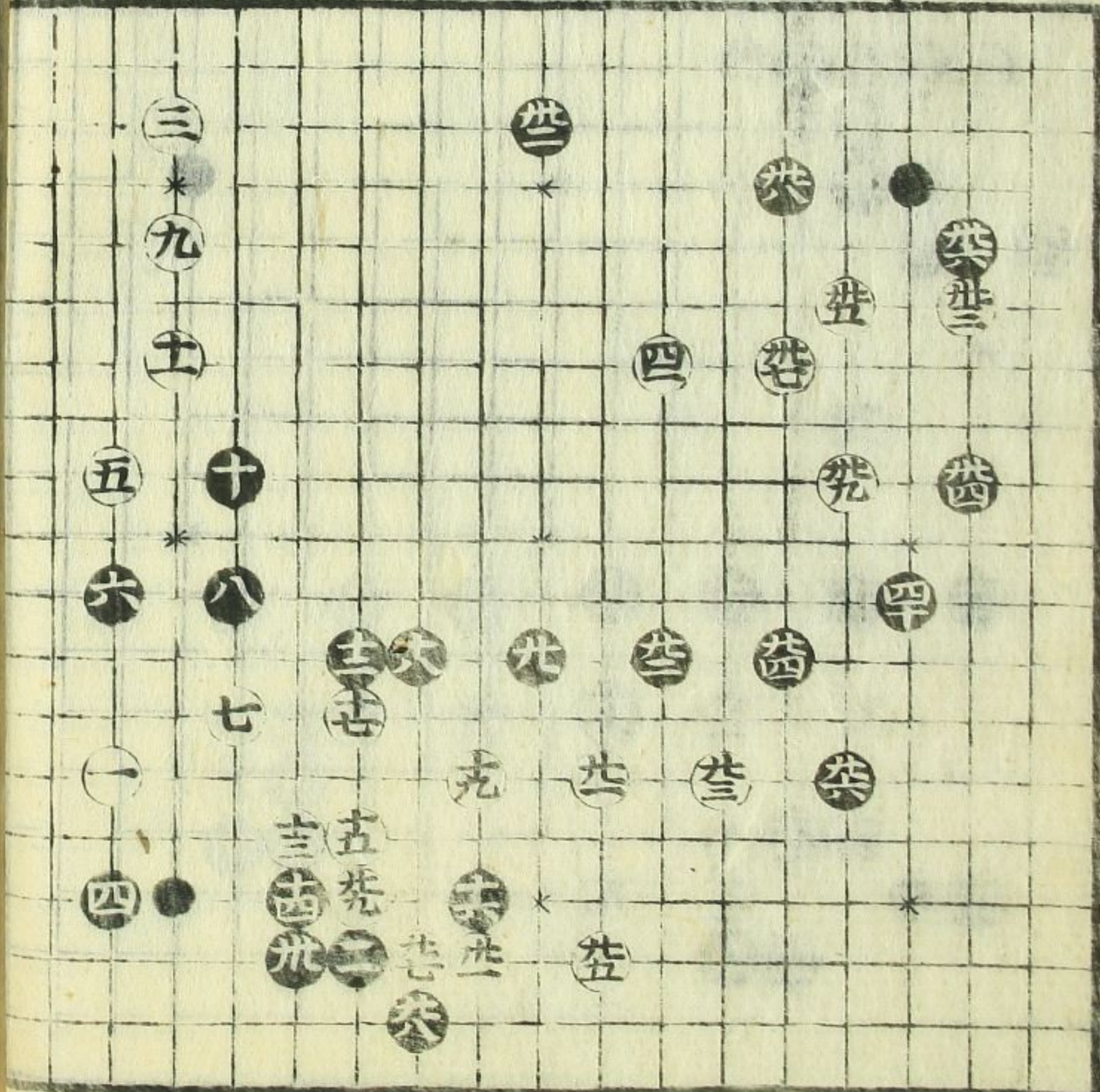
此の立地小なるを
て位沖を以て黒
より赤い黒の方
地帯にれども白
の帯を以て赤の
向して赤い動
りて赤い帯の
て掃くべき也

才三〇六

三十一と

此の立地小なるを
て位沖を以て黒
より赤い黒の方
地帯にれども白
の帯を以て赤の
向して赤い動
りて赤い帯の
て掃くべき也

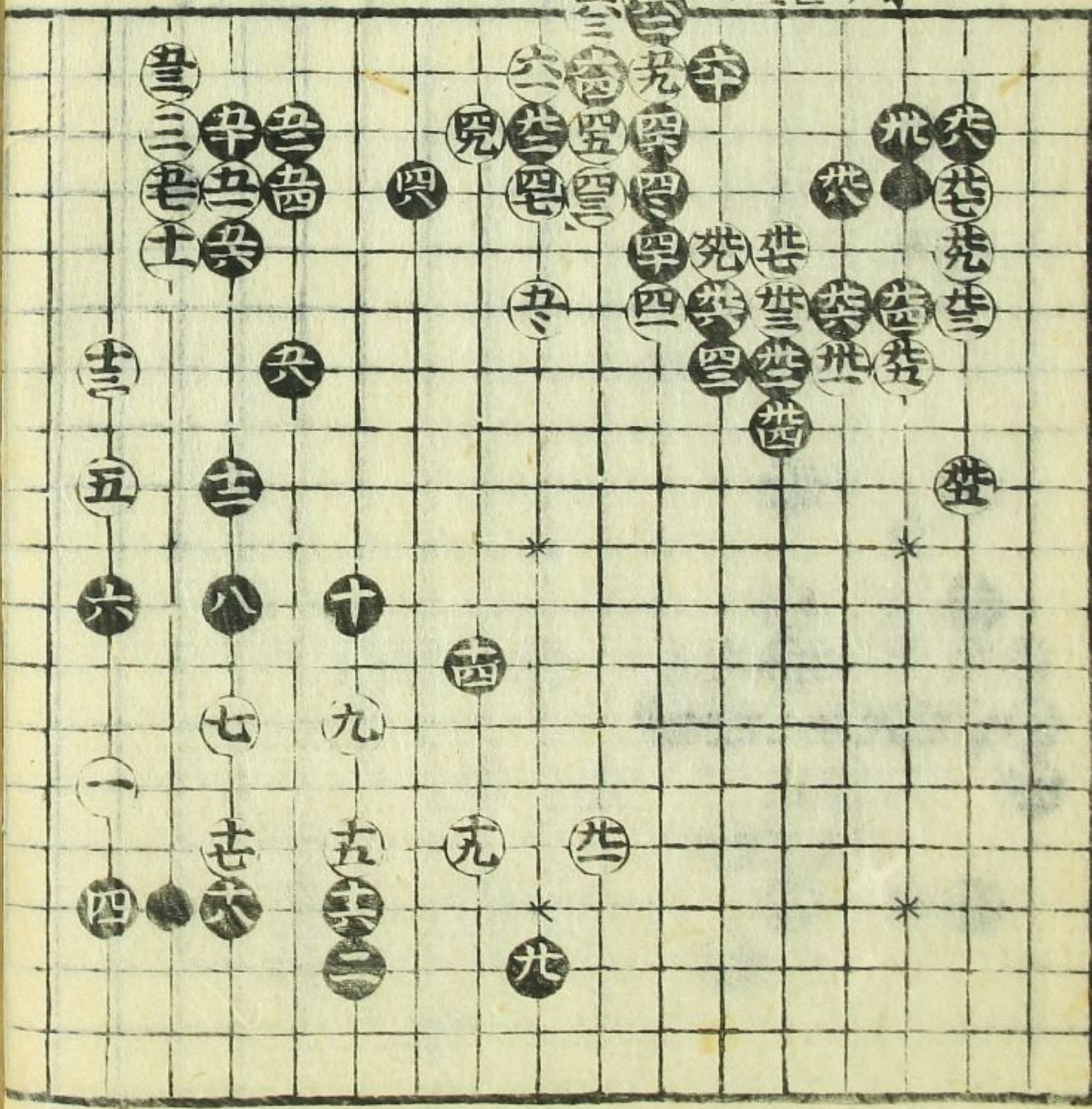
精義集 卷之七



才三三七

六十四と

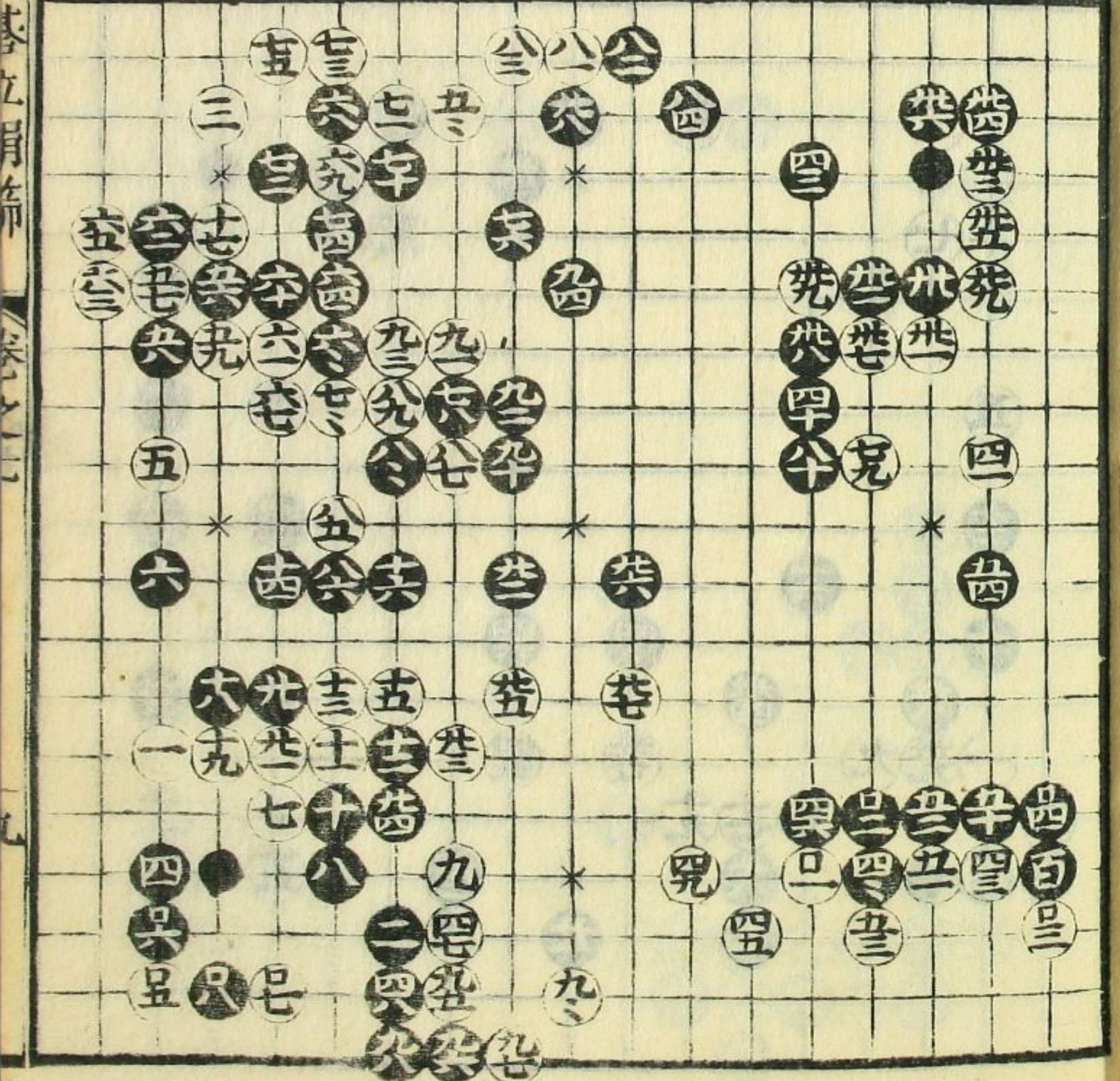
里のこくを五小
をれなく法くする
二の泰の二の和と
考の負の正の和と
成の方の正の和と
て清を正の和と
一の正の和と
成の白の和の
口伝あり



才三三八

百八と

三の石立にお此七の
二の少くはれすと
泰一とを悟る
白も十分小おと
二の勢のしと里
夫ふ事始はり



才四く一

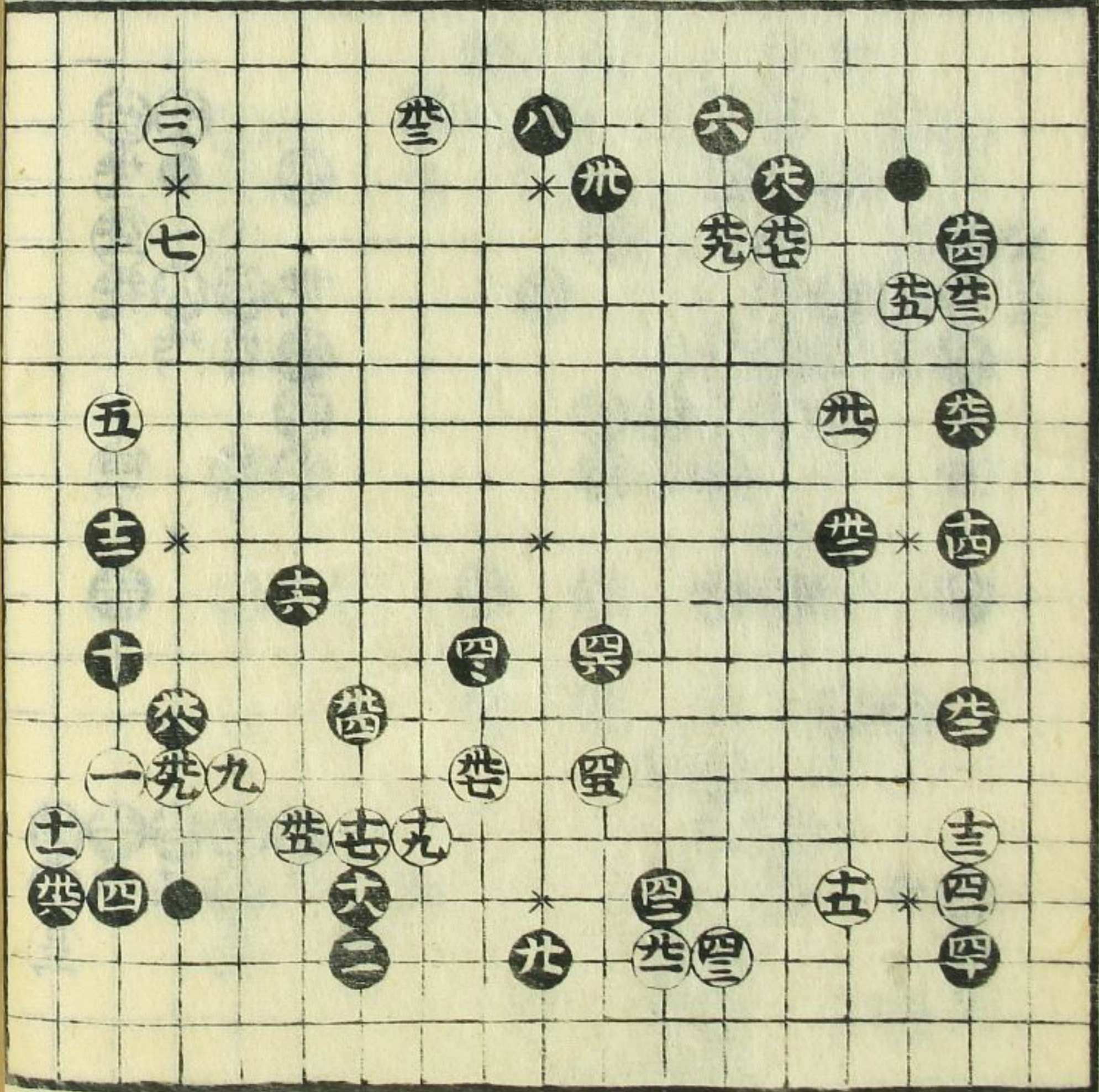
四十六と

此五を能て形
のこく望ま重故
るを中白を
く望めく
一切の委を神
大の世委を能
くく立申う
又方ふかう五乃
附考のこく打
口傳

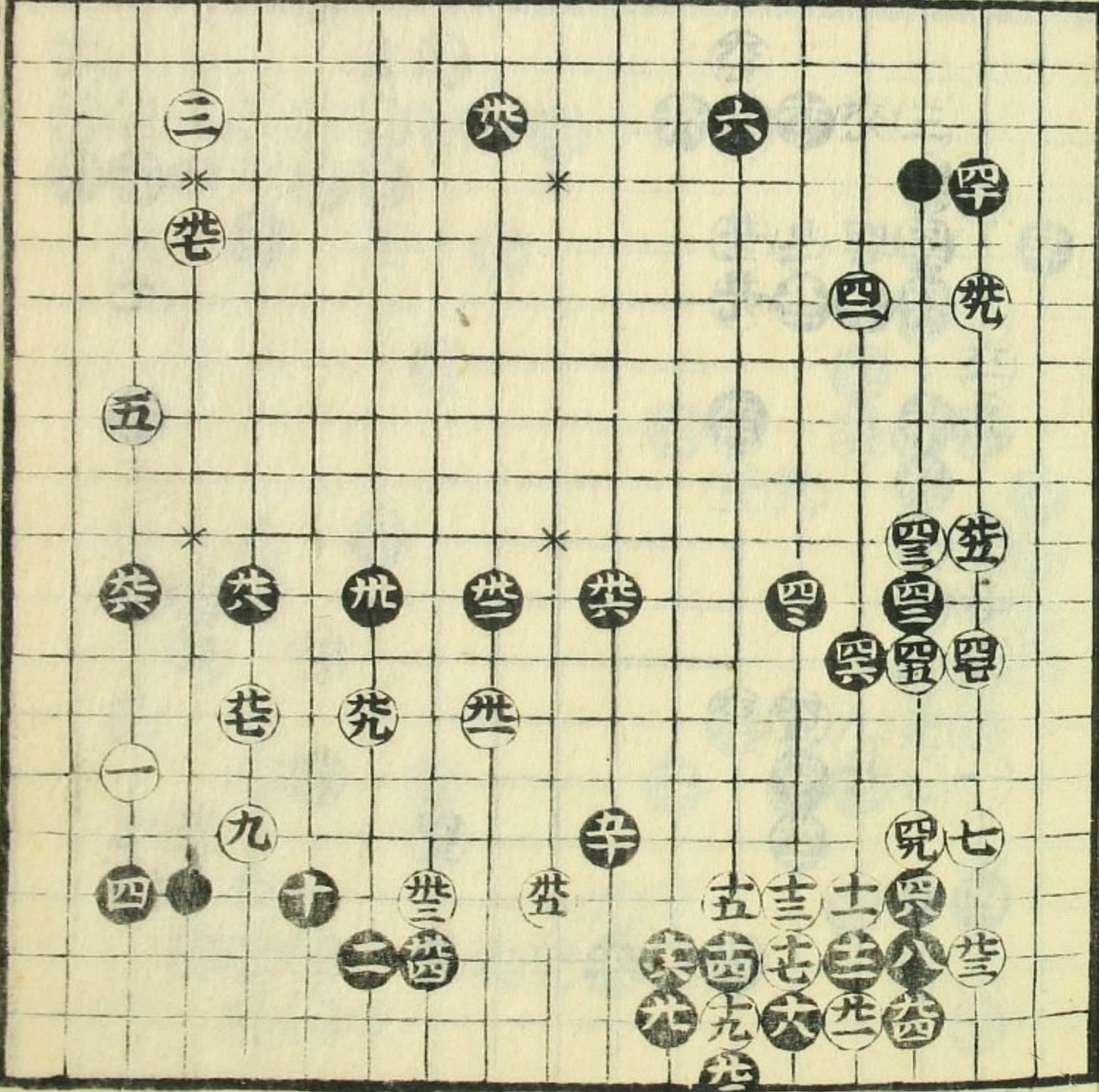
才四く二

五十五

新めち黒子茶
く中望望と身に
故るを望めく
の位をせう厚く
亦附ハ終れ
のこく海
ぬられても望
て



精進糸解 卷之七



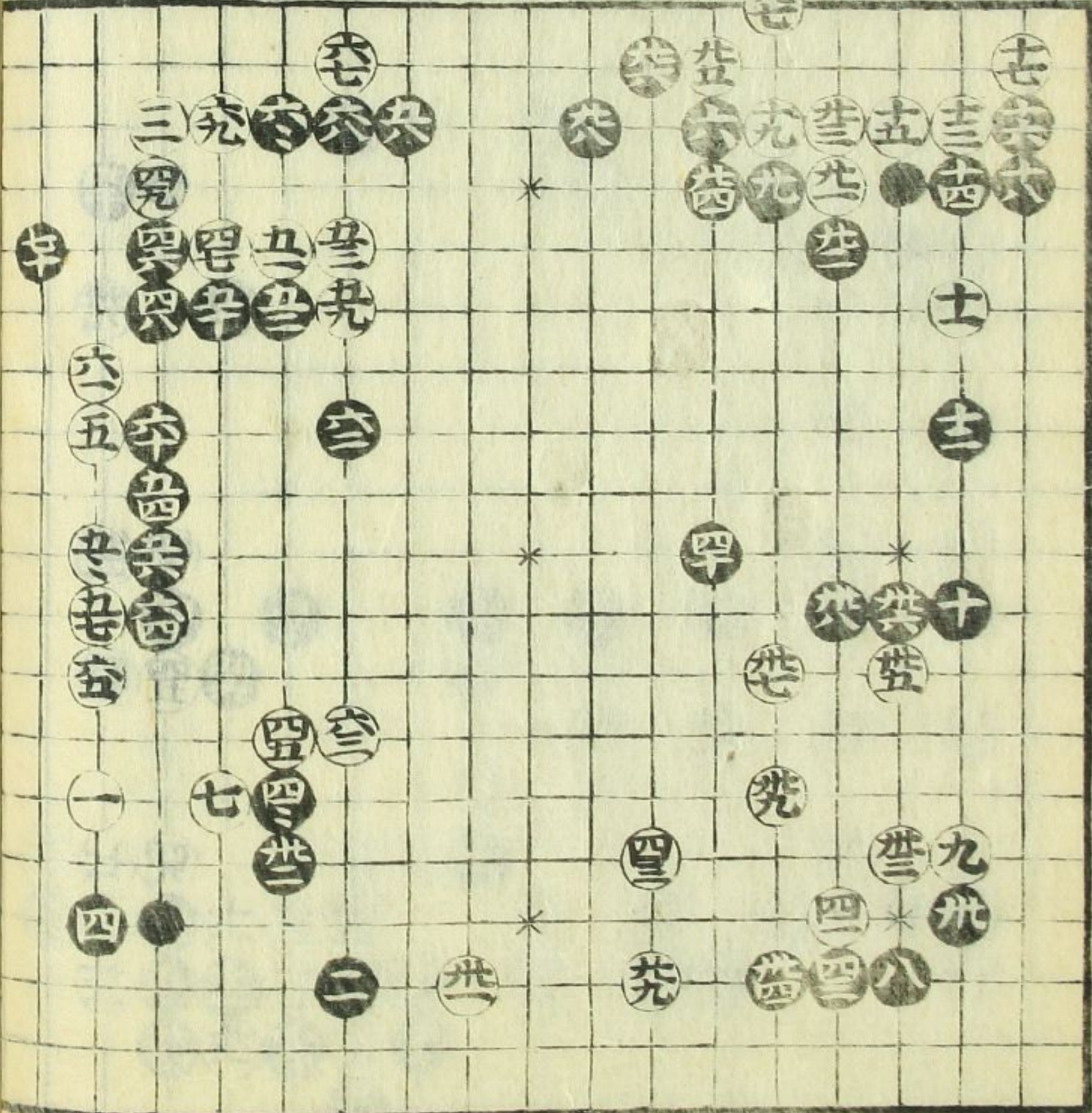
精進糸解 卷之七

才四之三

七十まで

黒大少一、那のや
切つてきつてのしり
海身を互小すを
事にく二の勢ひを
分りたり

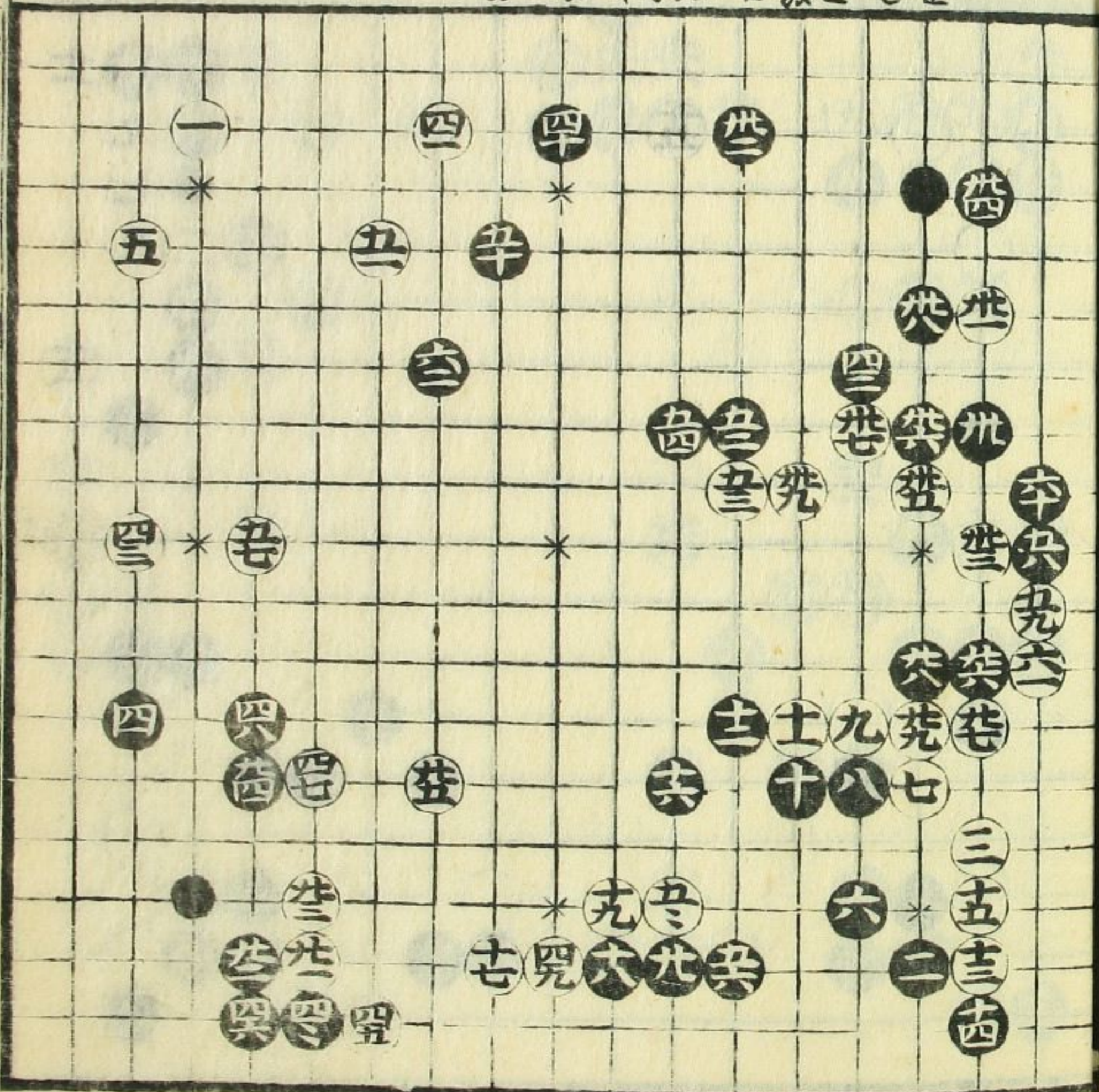
上の黒をひ有
白四小ぬくや



才五の一

六十まで

此石立別して位を
不るにけり、あす
何れも白の終は
ても二の勢ひの終
不を多くしをける
立を互のふをの内
あす、あす、あす、あ
十の時白地を多く
すのゆもめれ、あ
やく終りく、あ
あても終りく、あ
終りたり



碁立編
碁立編
碁立編

碁立編
碁立編
碁立編

才五十二

十六まで

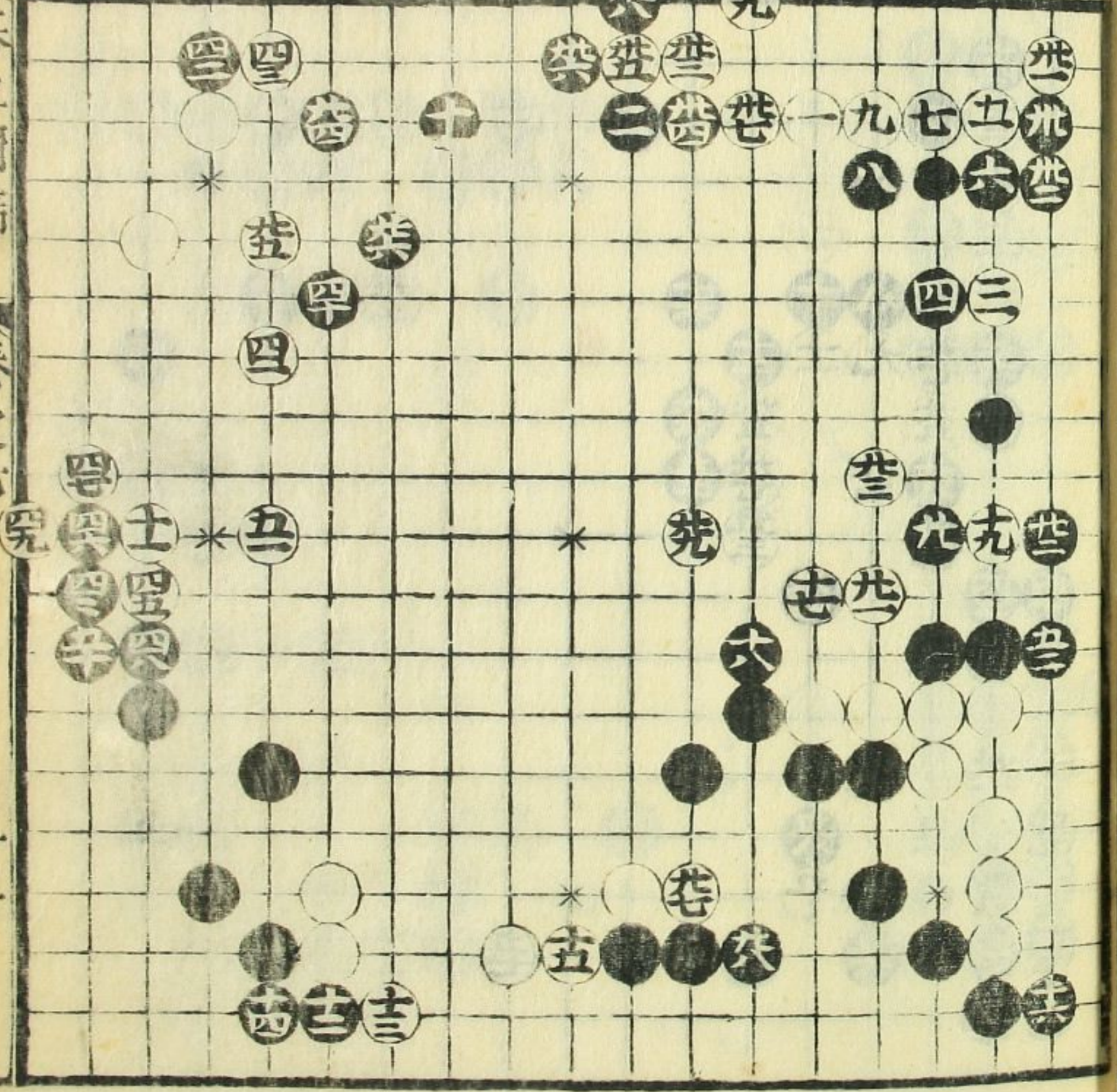
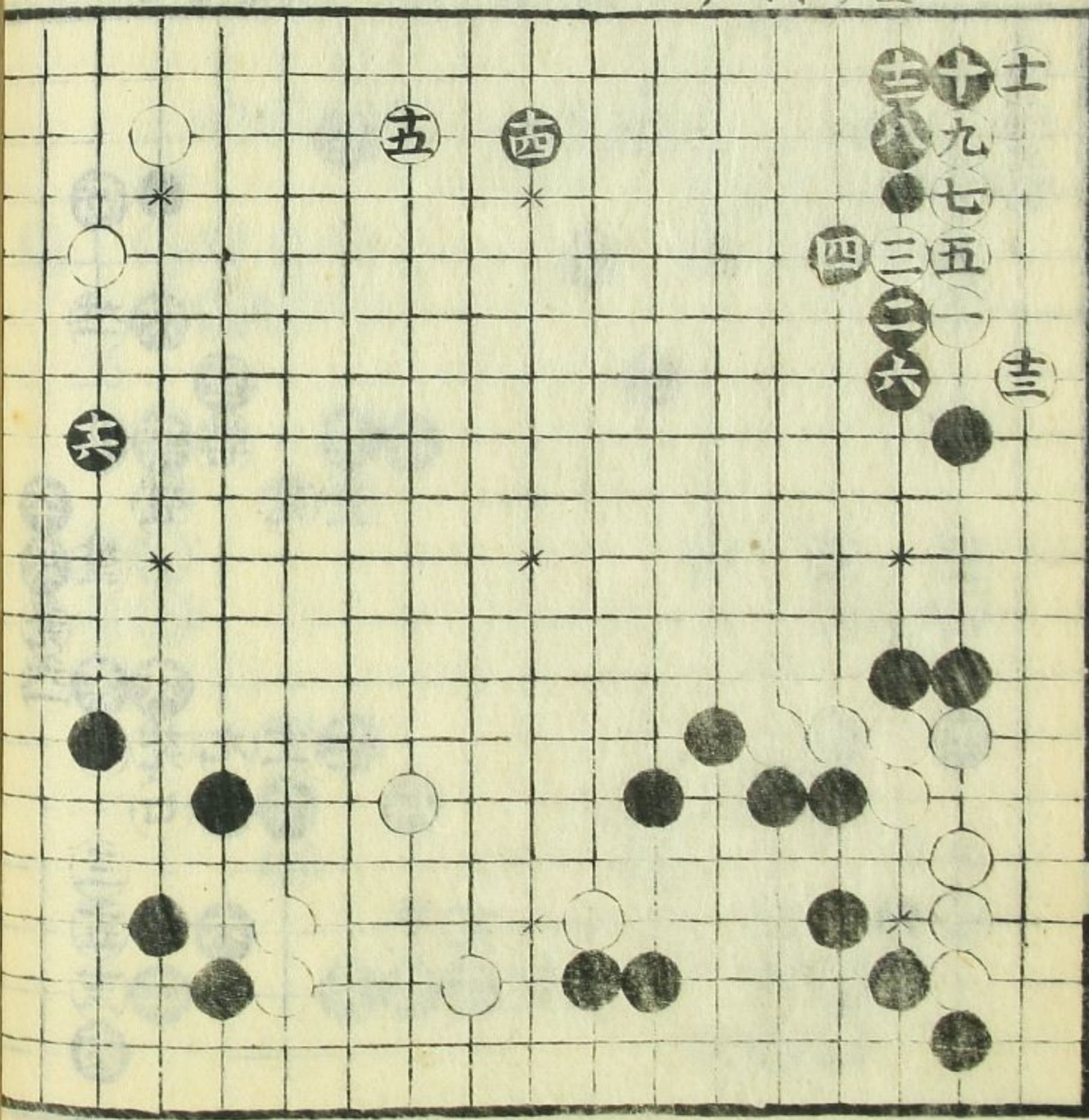
此九は八五の五
あつて一六の二の
やうな形を
折れと用ひ
て八里大より

才五十三

五十二まで

此九は五の五
白一と折れ
方八里通る
初めは
勢いよく
素成り

碁の
巻之二

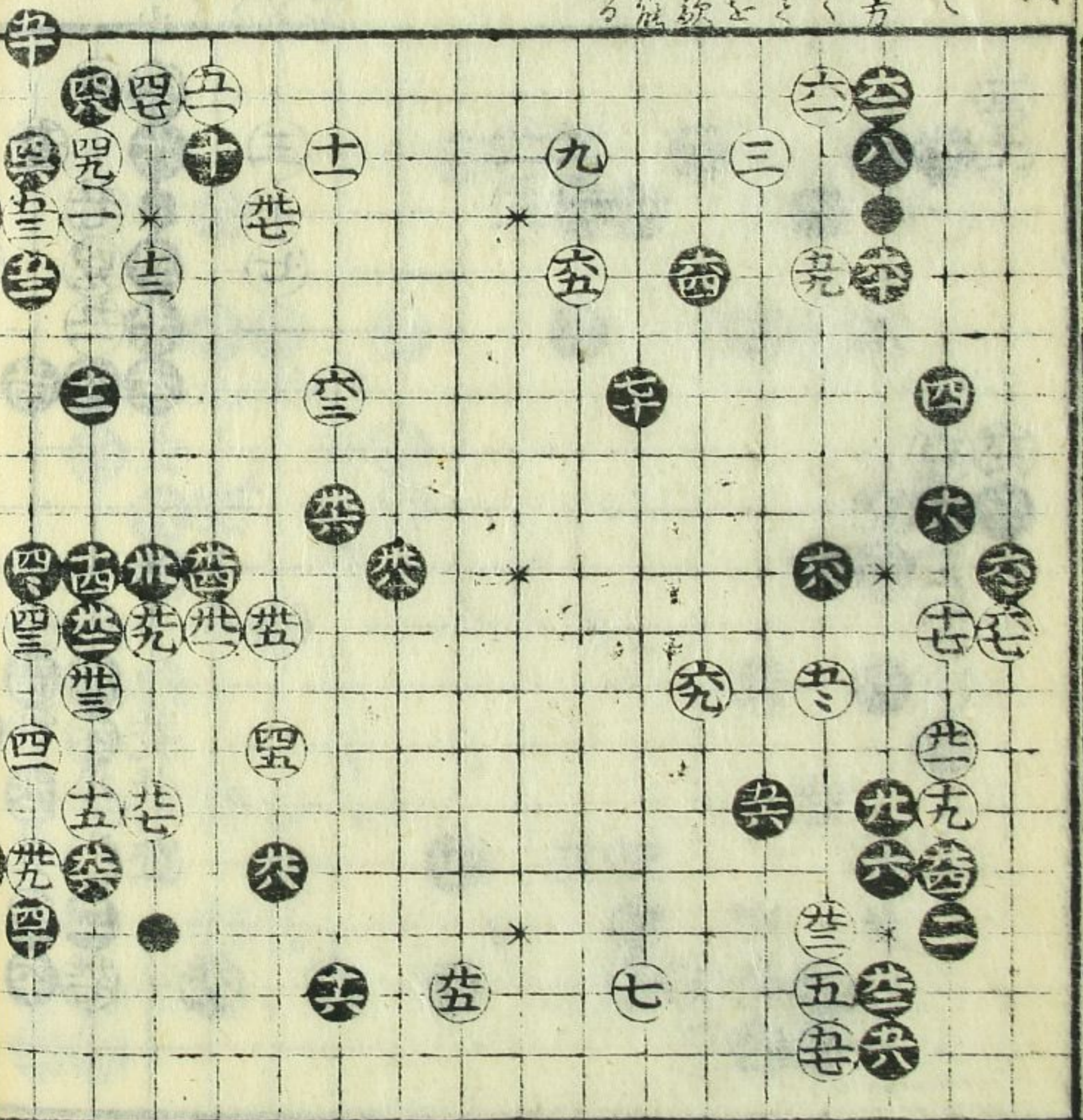


碁の
巻之二

才五く六

七十ナ

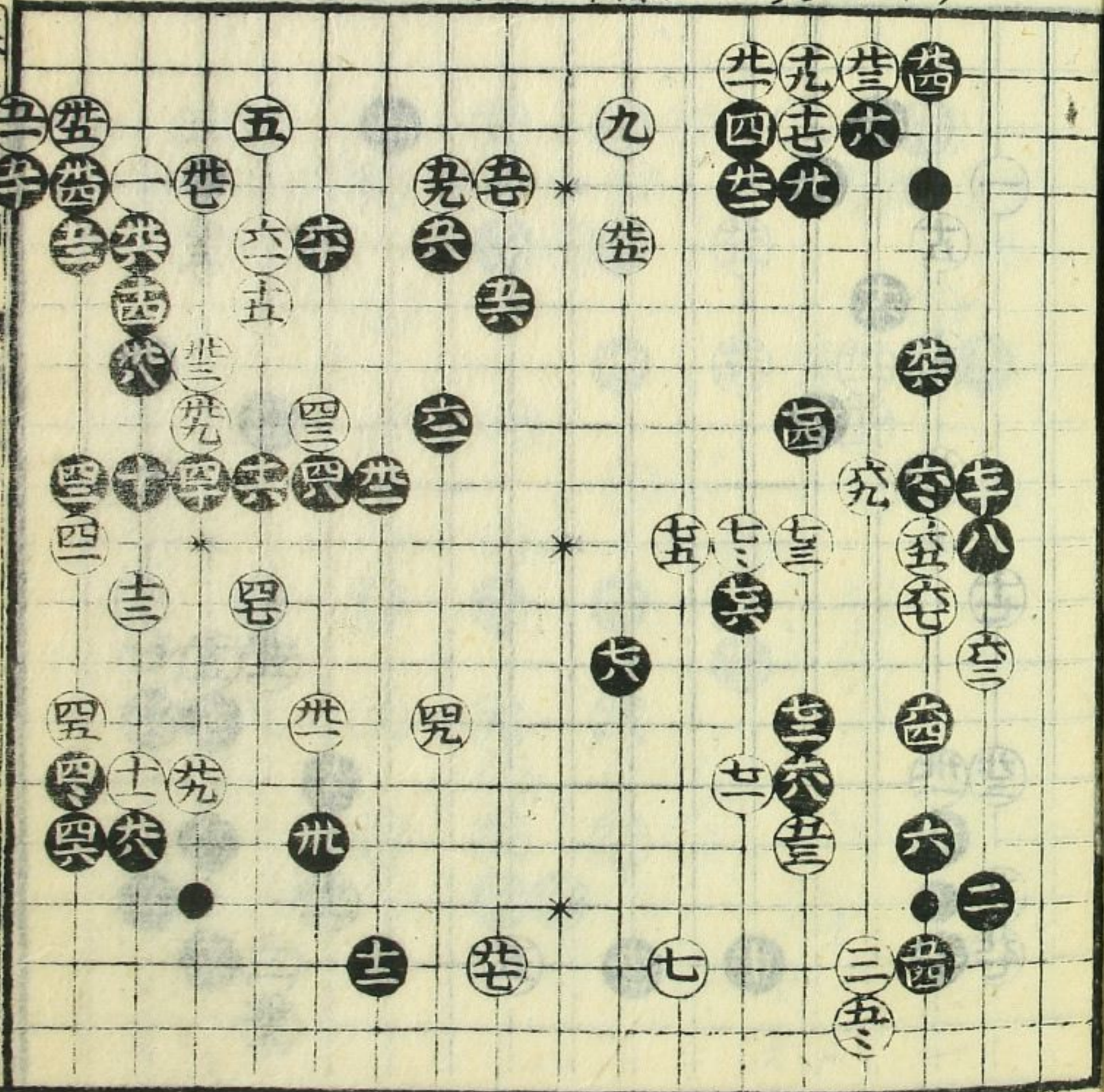
此名立む地も定むの方
勢ひも筋筋りく
怪成勝なりと想と
此表のこも我名と
堅くおく自能と欲
のこをいひむ事能
いひとぬく一切の
種なりり



才五く七

七十八と

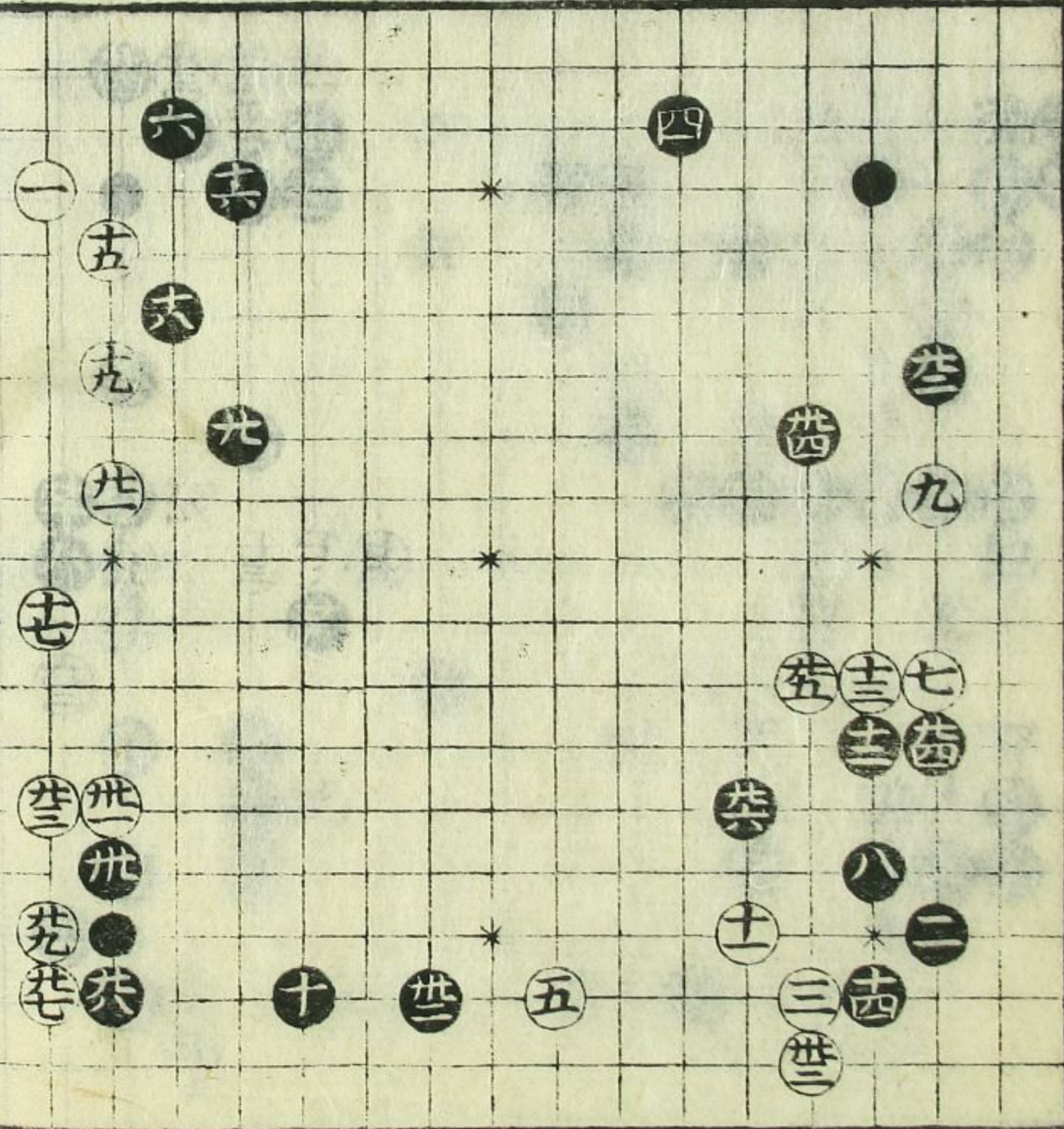
此名立む地も定むの方
勢ひも筋筋りく
怪成勝なりと想と
此表のこも我名と
堅くおく自能と欲
のこをいひむ事能
いひとぬく一切の
種なりり



才五し八

三十四と

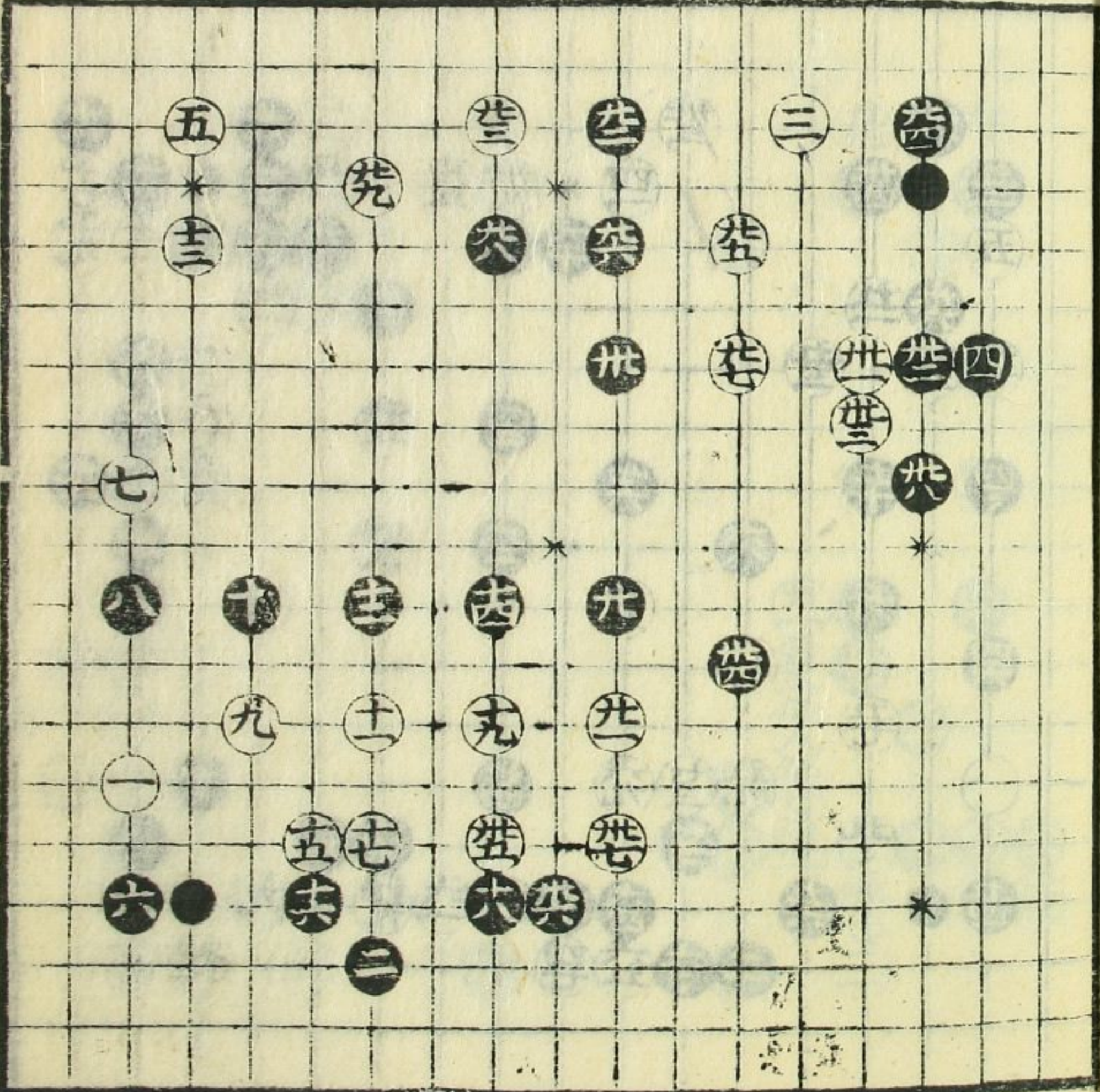
け不立のむくく白を
小多の行白を黒
能くは知るへ
成りり白世三のさ
子のもうりりぬ
附三十四とせり
とを多ては表を
にぬるかへ



才五し一

二十八と

け不立のむくく白を
立の二は表を黒
と不立は表を黒
がし動するは
二の勢は放る
と社知る時三
の石の表は
此むくく安



碁立総論 卷之七 十四

才七し二

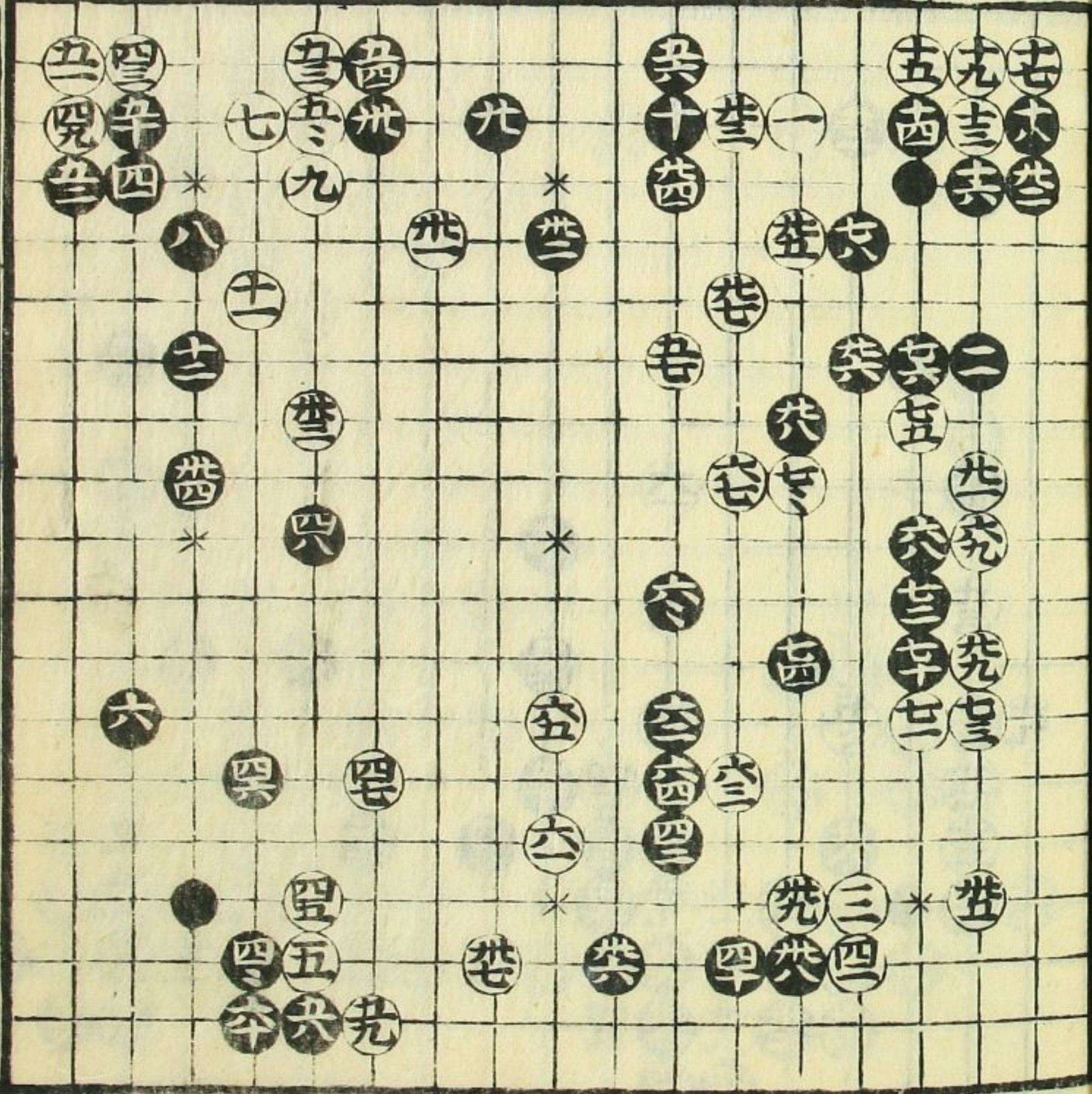
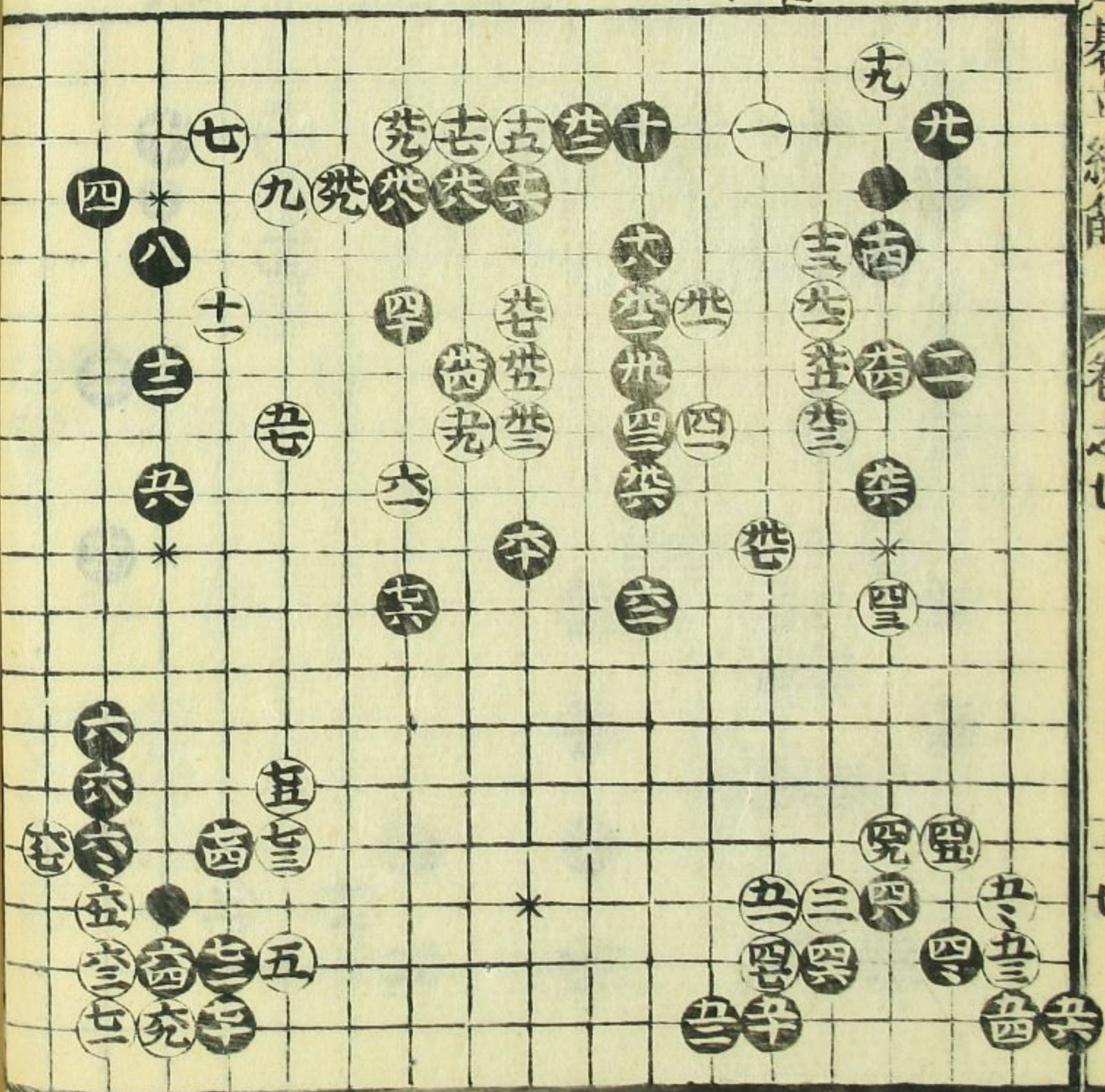
七十六と

いふふの通や
ゆも替るゆり
係はとあくして
成持といふとて
の性成黒勢ひ成
あふ

才七し三

七十八と

此をいふ持負はとく
見ゆれば故の持負は
秘しめ我を以て
くちてゆも自ら
透回と見え持負
法お上の打ちと
是れを一切の奏
信く替るゆり
壁く守りて外に
りく持るゆり
て基小信く其
かひを知らず

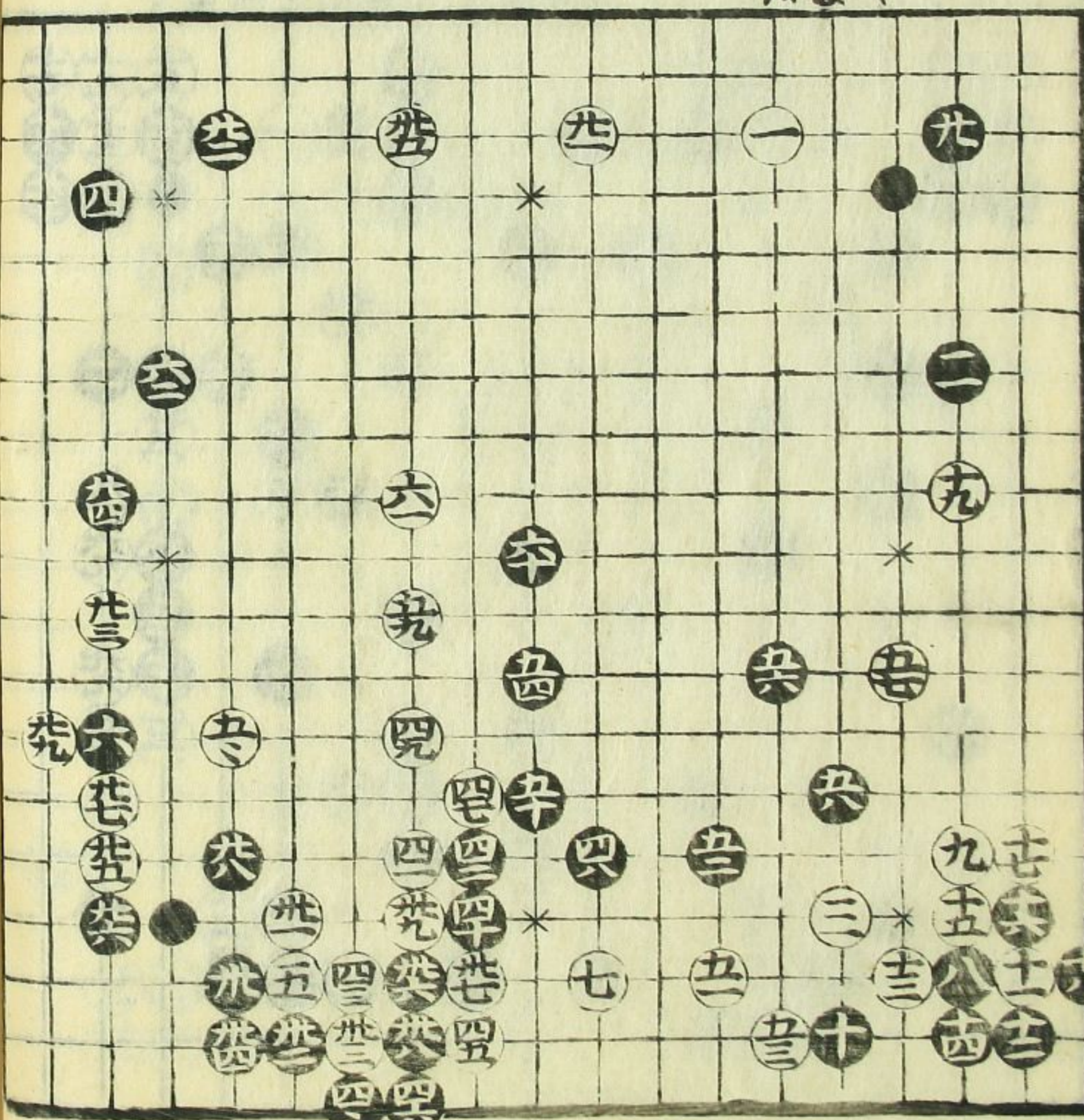


春九月節 卷之七 七

才七こ四

六十二と

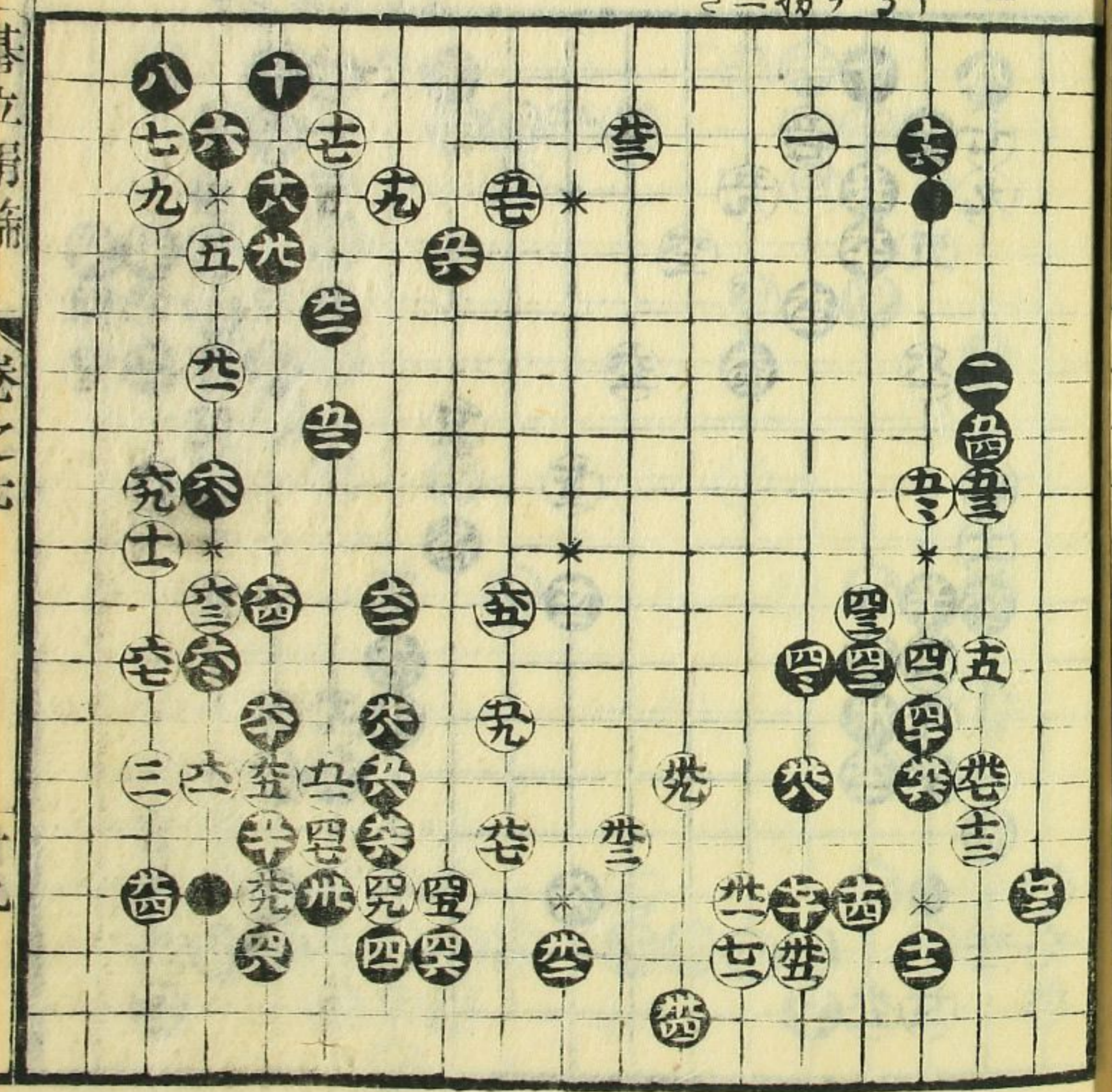
け石をよめて八甲く
黒見切く白の二
の位を清す事強
あふ



才八こ一

七十二と

此石をよめて八甲く
黒見切く白の二
の位を清す事強
あふ



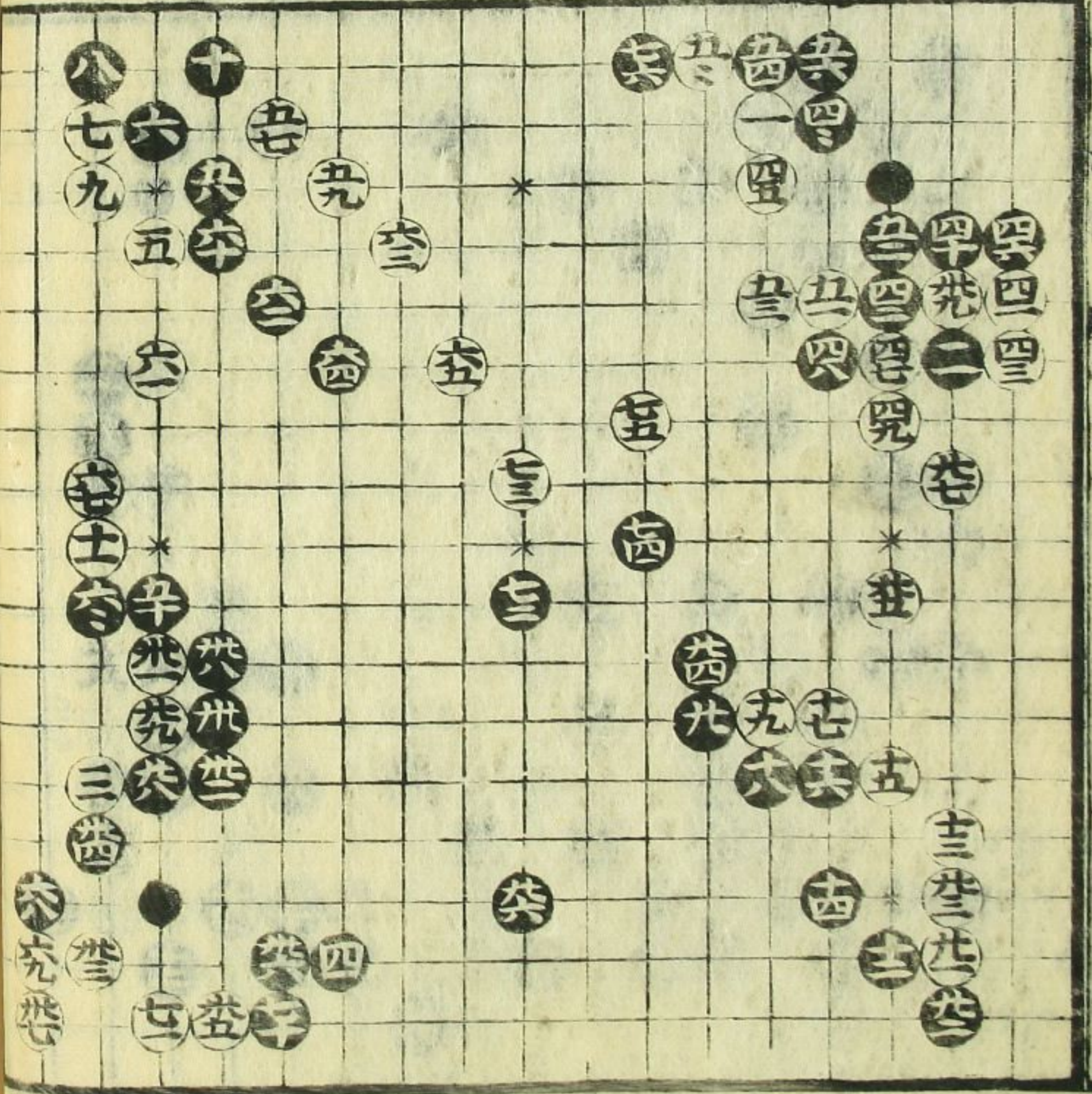
書五局備

卷二

才八し二

七十六と

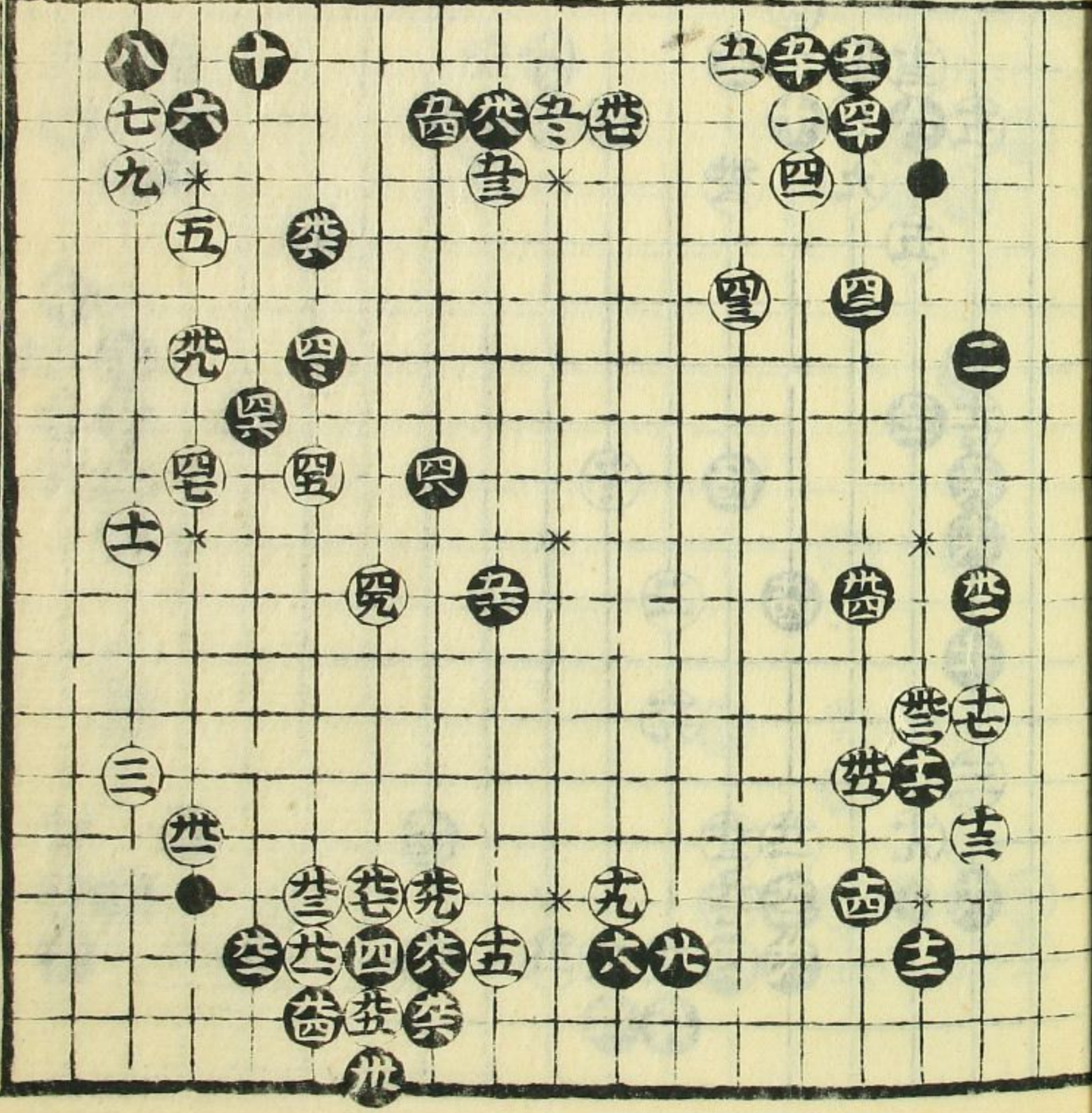
此よりして位の大
成りて一ゆれ
幸なりして二
大きに揚之白
打も其の
敵討たすも危
なり



才八し三

五十六と

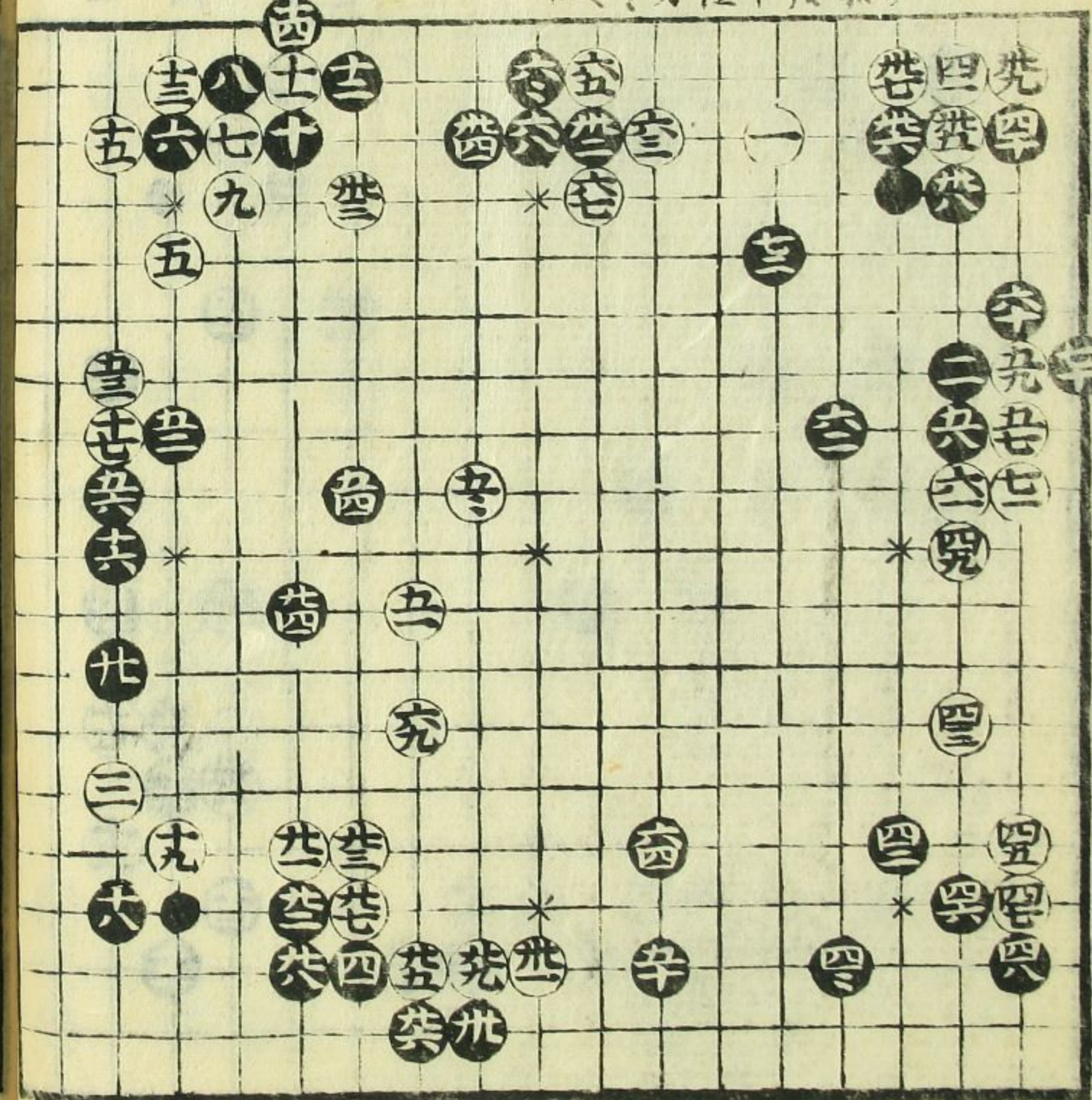
此よりして位の大
成りて一ゆれ
幸なりして二
大きに揚之白
打も其の
敵討たすも危
なり



才八十四

七十二

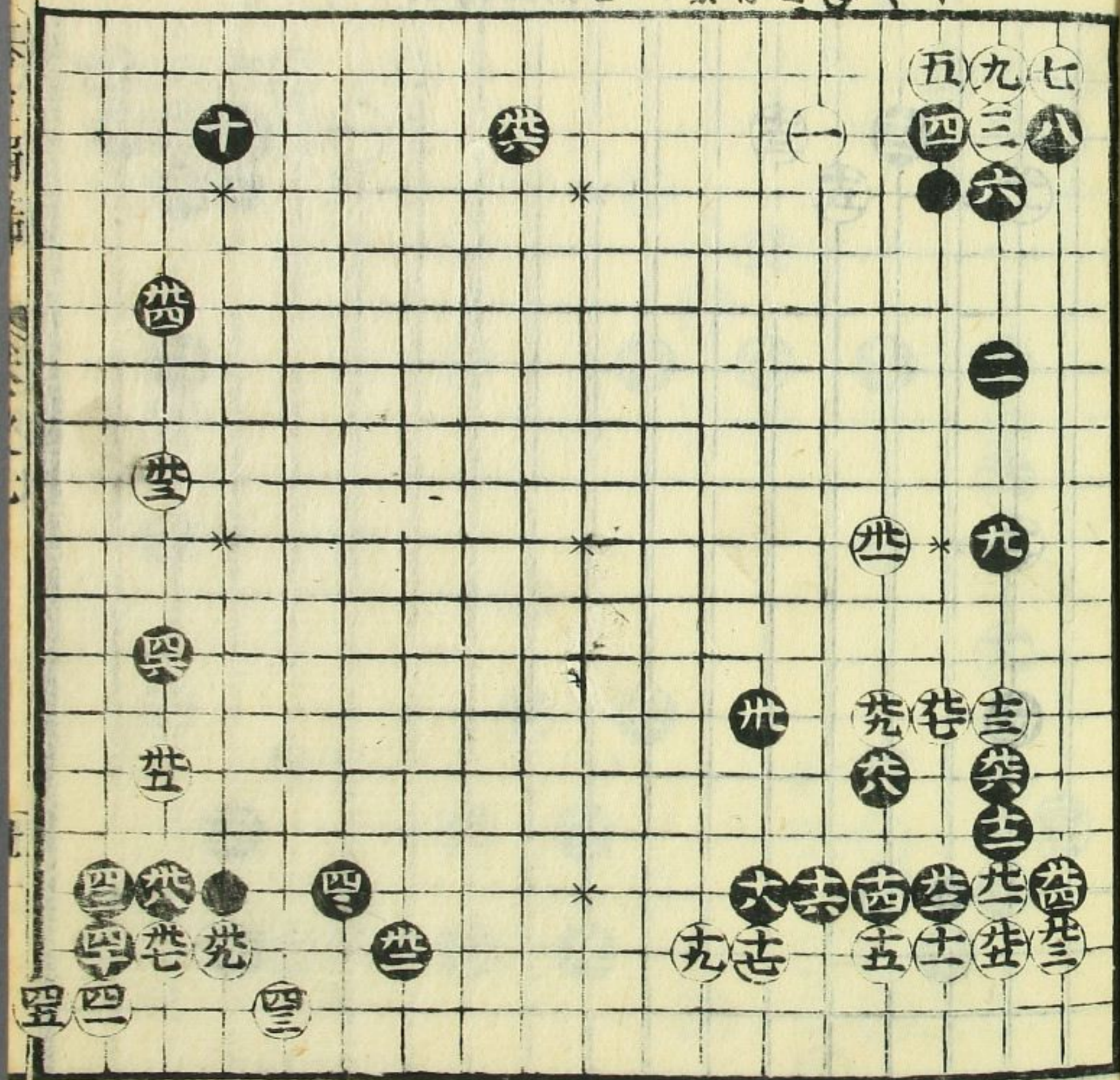
此五子に皆多し
けく故の勢ひ者不
を所し皆まを法
くす外もさし
不所らにさ附座
身を打白の落身
を結らさし一を
公方附八負有久



才九十一

四十六

此五子に皆多し
けく故の勢ひ者不
を所し皆まを法
くす外もさし
不所らにさ附座
身を打白の落身
を結らさし一を
公方附八負有久



才九し二

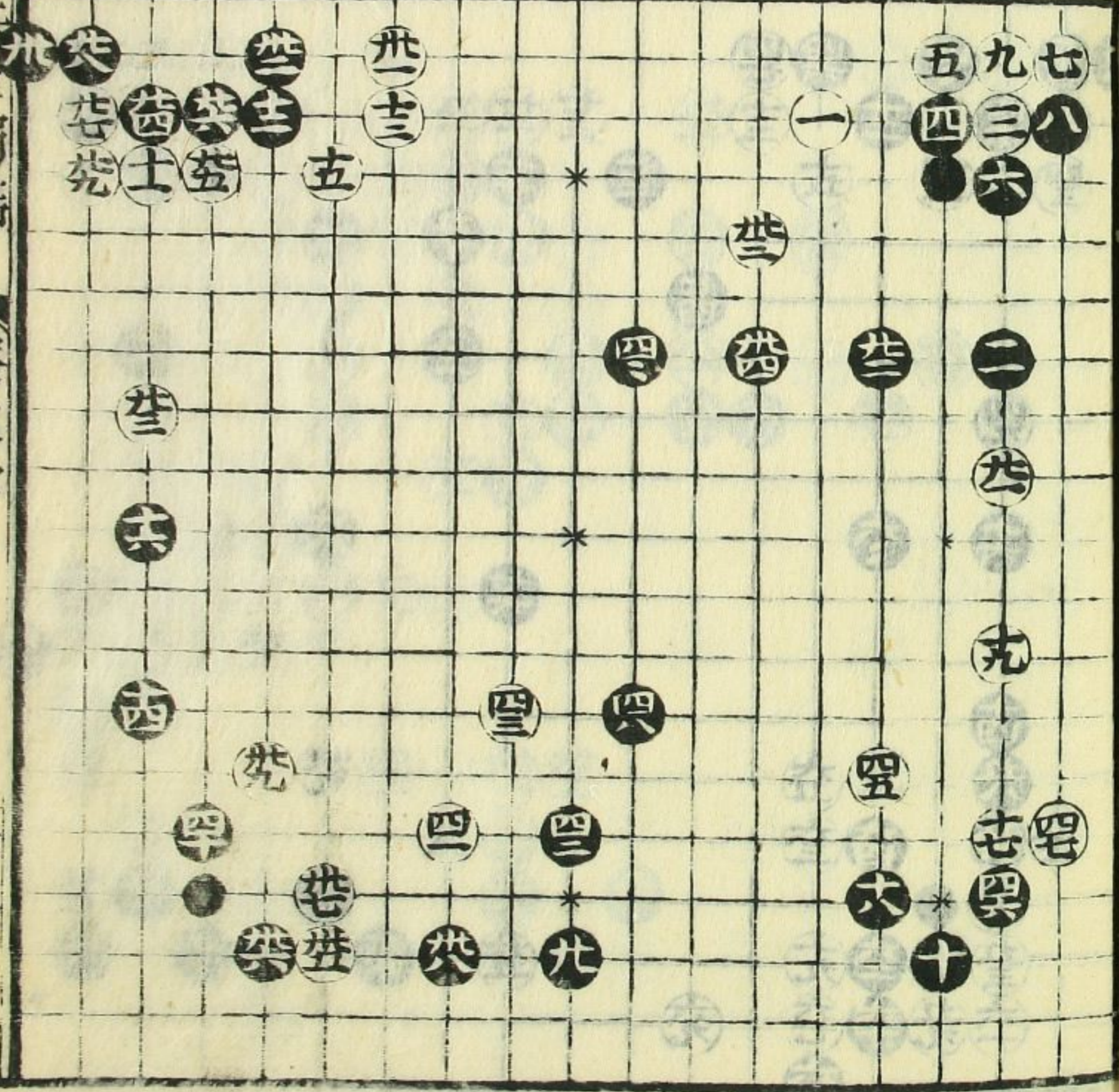
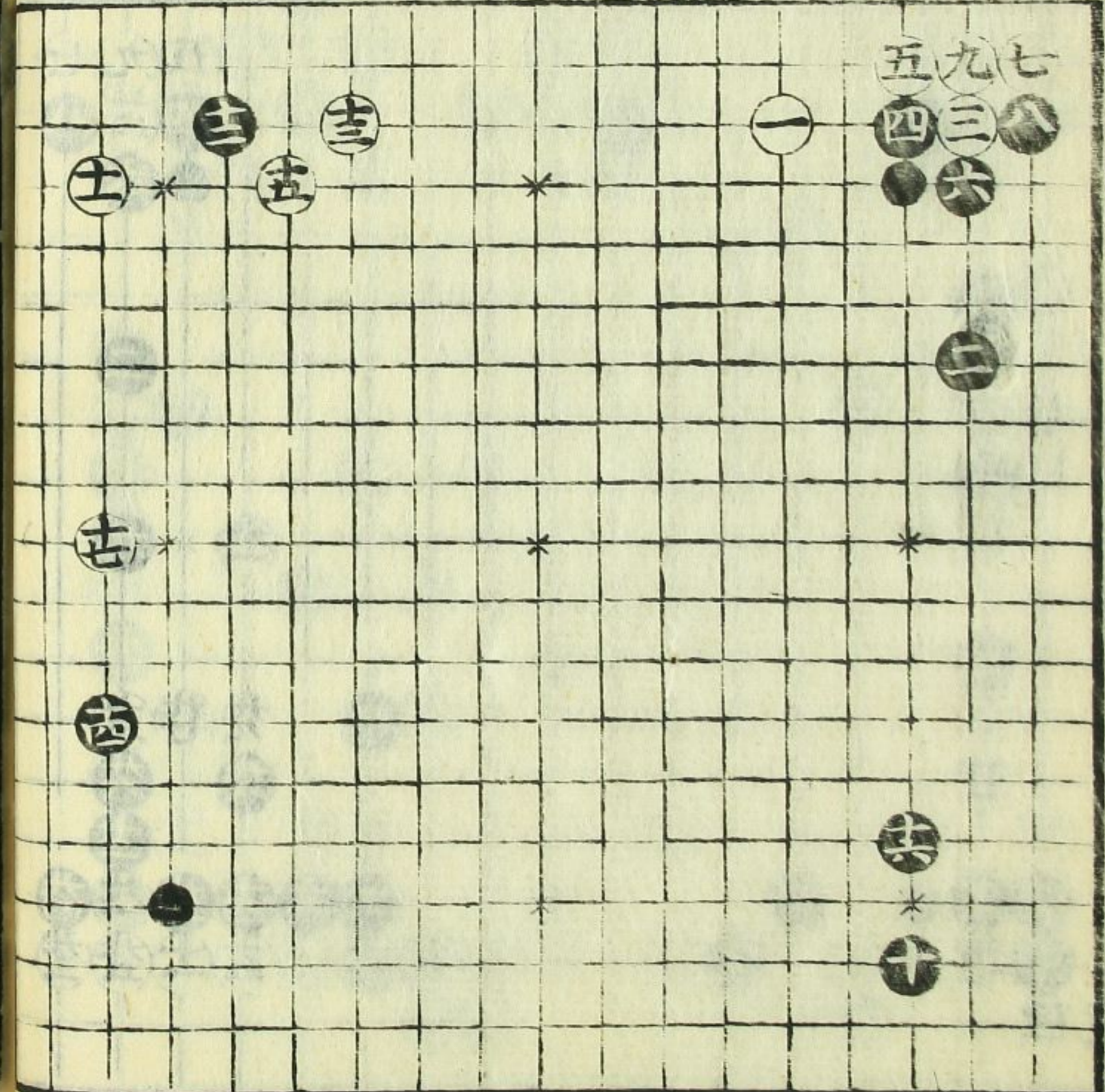
十七と

此石五里十六の石
て十四と二回
黒石八石
赤ても黒石四石
十四と二回
を
事と
に
赤

才九し二

四十八と

此石五里十四十八
の二石
れ

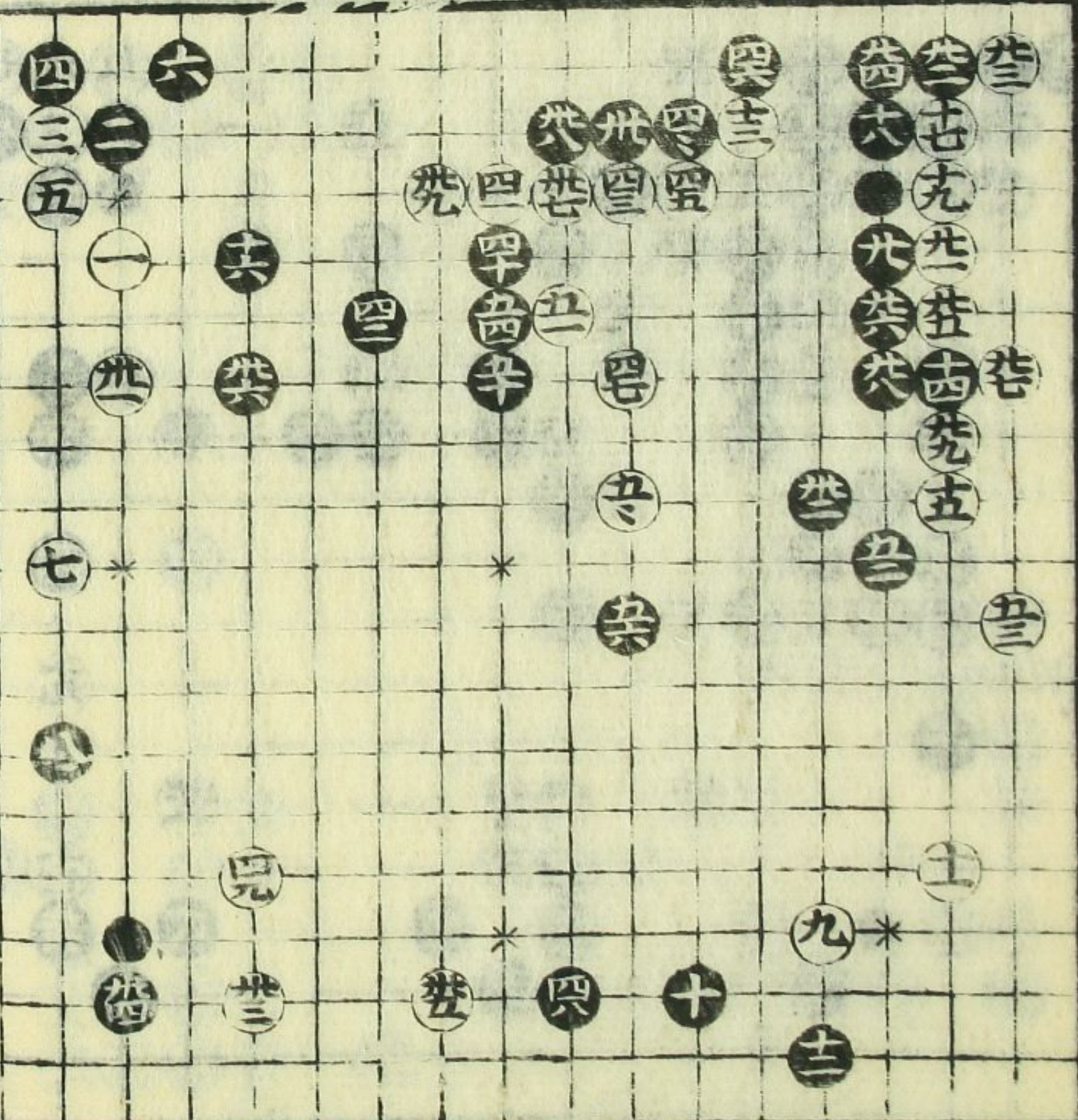


石の... 才九し二

才十一一

五十六と

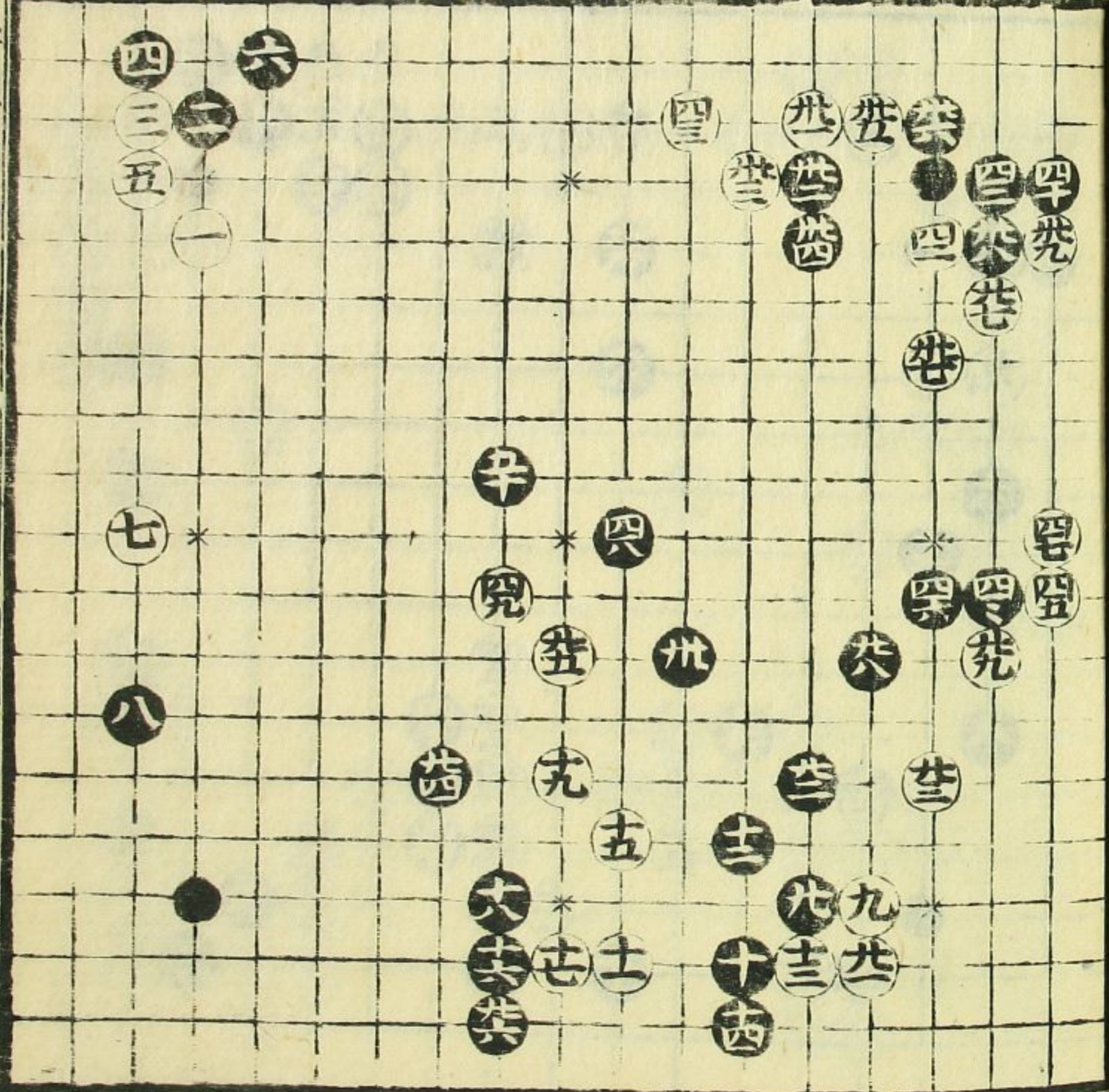
此の字を... 黒の字... 任と... 石... 才十一一五十六の... 白... 黒...



才十一二

五十七と

此の字... 面... 八... 白... 又... 一... 一切の...



才十一一
才十一二
才十一三
才十一四
才十一五
才十一六
才十一七
才十一八
才十一九
才十

